

DP (教育目標)

- DP1 経営情報それぞれの分野に応じた専門的な知識を身に付け、適切に理解して活用することができる。
- DP2 情報通信技術 (ICT) を活用して経営に係る分析ができ、新しい視点に立って経営活動に携わることができる。
- DP3 多様な価値観について理解し、異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる。
- DP4 社会人として必要な倫理と自律性、協調性を身に付け、ストレスコントロールをしながら適切にリーダーシップを発揮し、行動することができる。
- DP5 企業、行政、教育等の現場において、正しく状況を把握し、課題を発見し、解決に努めることができる。

| 科目群       | 科目名           | 単位数 | 科目区分                                                                                                                                                                                                                         | 科目概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP5    | SDGs該当項目 |
|-----------|---------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|--------|----------|
| キャリア形成科目群 | アカデミック・プラクティス | 1   | 必修                                                                                                                                                                                                                           | この授業は、大学で学問を学ぶ者としてふさわしいアカデミックスキルの修得およびその実践を目的とする。本授業ではアカデミックスキルのうち、より高度で応用的なスキルとされるグループディスカッションやプレゼンテーションの技法を中心テーマとして取り扱う。                                                                                                                                                                                                                                               | ○   |     |     | ◎   |        | 4,5,17   |
|           | プレゼミナールA      | 1   | 必修                                                                                                                                                                                                                           | 3年次からの専門ゼミナール導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に指導する。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナールにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。                                                                                                                                                                                                                  | ○   |     |     | ◎   |        | 4,5,17   |
|           | プレゼミナールB      | 1   | 必修                                                                                                                                                                                                                           | 3年次からの専門ゼミナール導入教育として演習活動に必要な基本を、プレゼミ的に指導する。当該コース教員による演習を通じ、所属分野に対する学生の興味を喚起し、3年次からの専門ゼミナールにつなげられるよう、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、就職活動を円滑に進められるよう、必要な知識や準備すべき事項を学ぶ。                                                                                                                                                                                                                  | ○   |     |     | ◎   |        | 4,5,17   |
|           | キャリアプランニングA   | 1   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | この授業では、就職活動を有意義に進めるために必要な知識・スキルを学ぶこと、および自己理解を深めながらキャリア形成を行う能力の養成を目標とする。近年では就職活動は前倒しの傾向が強まっており、早い学生は3年秋学期にも就職活動が始まるため、なるべく早くに、各自が自らの就職活動プランを立案して実行することにある。本授業では外部からのゲスト講師の講演を交え、現在の就職活動の状況を学生に伝え、準備を整えていくことに主眼を置いている。本授業の学修は本学部DP4の「社会人として必要な倫理と自律性、協調性を身に付け、ストレスコントロールをしながら適切にリーダーシップを発揮し、行動することができる」、及びDP5「企業、行政、教育等の現場において、正しく状況を把握し、課題を発見し、解決に努めることができる」を実現することに寄与する。 |     |     |     | ○   | ◎      | 4,17     |
|           | キャリアプランニングB   | 1   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | この授業では、就職活動を有意義に進めるために必要な知識・スキルを学ぶこと、および自己理解を深めながらキャリア形成を行う能力の養成を目標とする。近年では就職活動は前倒しの傾向が強まっており、早い学生は3年秋学期にも就職活動が始まるため、なるべく早くに、各自が自らの就職活動プランを立案して実行することにある。本授業では外部からのゲスト講師の講演を交え、現在の就職活動の状況を学生に伝え、準備を整えていくことに主眼を置いている。本授業の学修は本学部DP4の「社会人として必要な倫理と自律性、協調性を身に付け、ストレスコントロールをしながら適切にリーダーシップを発揮し、行動することができる」、及びDP5「企業、行政、教育等の現場において、正しく状況を把握し、課題を発見し、解決に努めることができる」を実現することに寄与する。 |     |     |     | ○   | ◎      | 4,17     |
|           | 海外ビジネス研修I     | 2   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | 米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。フランス研修の場合は、本学姉妹大学パリ東大学クレティユ校と連携して実施する。学生は、フランス及びEUの先進的なビジネス（小売・ファッション・観光・環境など）や日系企業の活動など豊富な事例を見聞し、経営者と意見交換する。それによりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につける。現地の日本事務所や国際機関を訪問し、EUやフランスの経済・経営事情についても聴き取り調査を行う。                                                                                 |     |     | ◎   | ○   |        | 8,17     |
|           | 海外ビジネス研修II    | 2   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | 米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。フランス研修の場合は、本学姉妹大学パリ東大学クレティユ校と連携して実施する。学生は、フランス及びEUの先進的なビジネス（小売・ファッション・観光・環境など）や日系企業の活動など豊富な事例を見聞し、経営者と意見交換する。それによりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につける。現地の日本事務所や国際機関を訪問し、EUやフランスの経済・経営事情についても聴き取り調査を行う。                                                                                 |     |     | ◎   | ○   |        | 8,17     |
|           | 海外ビジネス研修III   | 2   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | 米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。フランス研修の場合は、本学姉妹大学パリ東大学クレティユ校と連携して実施する。学生は、フランス及びEUの先進的なビジネス（小売・ファッション・観光・環境など）や日系企業の活動など豊富な事例を見聞し、経営者と意見交換する。それによりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につける。現地の日本事務所や国際機関を訪問し、EUやフランスの経済・経営事情についても聴き取り調査を行う。                                                                                 |     |     | ◎   | ○   |        | 8,17     |
|           | 海外ビジネス研修IV    | 2   | 選択                                                                                                                                                                                                                           | 米国、フランス、韓国、グローバルビジネス学習プログラム等、学部の海外研修に参加することにより本科目の単位が認められる。フランス研修の場合は、本学姉妹大学パリ東大学クレティユ校と連携して実施する。学生は、フランス及びEUの先進的なビジネス（小売・ファッション・観光・環境など）や日系企業の活動など豊富な事例を見聞し、経営者と意見交換する。それによりグローバル経営についてより深く理解し、今後のグローバルビジネスについて学ぶとともにコミュニケーション能力を身につける。現地の日本事務所や国際機関を訪問し、EUやフランスの経済・経営事情についても聴き取り調査を行う。                                                                                 |     |     | ◎   | ○   |        | 8,17     |
| ビジネスキャリアI | 1             | 必修  | アドバイザー別に授業を実施する。高等学校から大学への円滑な移行を図るために初年次教育として大学での「学び」のノウハウやスキル、キャリア形成に必要なスキルを全学部共通基盤科目「スタディ・スキルズ」で扱うが、ビジネスキャリアIでは、「スタディ・スキルズ」での学びを踏まえて、アクティブラーニングを助長するため、学生の知的好奇心を高められる課題解決型のテーマ設定を行い、グループでのディスカッションやプレゼンテーション・意見交換を行う予定である。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |     |     | ○   | ◎   | 4,5,17 |          |

|             |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |   |   |   |   |  |               |
|-------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|--|---------------|
| ビジネスキャリアIIA | 1 | 必修 | 4クラスに分けて授業を実施する。<br><グローバルビジネス分野><br>海外留学に向けての準備、留学生活においても卒業後においてもグローバル人材として必須となるであろう語学力(英語)の向上を、テーマとして扱う予定である。<br><地域公共マネジメント分野><br>公務員の仕事に対する理解を深め、公務員試験の概要と過去問を活用した授業を行う。将来のキャリア形成において、社会の構成員としての自覚をもち、進む道を考える機会としたい。<br><スポーツマネジメント分野(保健体育教職課程)><br>教育の三本柱である、知育・徳育・体育をスポーツの特性や健康の観点から実践する。授業は資料等の読み取りを行い、個人やグループワークによるレポート作りを行う。<br><スポーツマネジメント分野><br>スポーツに関わる仕事についての概要を説明する。また、ゲストスピーカーを招いて、講義・ディスカッション等を行い、スポーツに関わる仕事に対する理解を深める。 | ○ |   |   | ◎ |   |  | 4,5,17        |
| ビジネスキャリアIIB | 1 | 必修 | 4クラスに分けて、授業を実施する。<br><グローバルビジネス分野><br>実際に海外で働くイメージを描くという観点から、グローバル人材としての専門性について考えることを、テーマとして扱う予定である。<br><地域公共マネジメント分野><br>ニュース検定の内容(政治、地方自治、経済、生活や暮らし)を扱う予定である。公務員試験及び企業の採用試験にも役立つ。また、将来のキャリア形成において、社会の構成員としての自覚をもち、進む道を考える機会としたい。<br><スポーツマネジメント分野(保健体育教職課程)><br>教育の三本柱である、知育・徳育・体育をスポーツの特性や健康の観点から実践する。授業は資料等の読み取りを行い、関連した内容についてプレゼンテーションを行う。<br><スポーツマネジメント分野><br>健康・スポーツ関連資格の概要を説明するとともに、資格取得に関わる学習を通して、専門的な知識等を身につける。              | ○ |   |   | ◎ |   |  | 4,5,17        |
| ビジネスキャリア実践A | 1 | 選択 | 近年、就職活動は前倒しの傾向が強まっていることやインターンシップを活用した学生が内定を受けるケースが多くなっている。このような状況において有意義に就職活動を進めるためには、より早期に卒業後の進路・職業選択のために必要な知識を学び、積極的に情報を収集し、行動していくことが重要となる。<br>この科目では、自己分析の行い方、履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶとともに、面接、インターンシップ、就職情報サイトの活用方法、適性検査についての情報や知識を得ながら、個人の進路・職業選択に応じた能力を作り上げ、キャリア形成を図っていく。                                                                                                                                                              |   |   |   | ◎ |   |  | 8,17          |
| ビジネスキャリア実践B | 1 | 選択 | 近年、就職活動は前倒しの傾向が強まっていることやインターンシップを活用した学生が内定を受けるケースが多くなっている。このような状況において有意義に就職活動を進めるためには、より早期に卒業後の進路・職業選択のために必要な知識を学び、積極的に情報を収集し、行動していくことが重要となる。<br>この科目では、一般企業における業界研究の方法やビジネスマナーを学ぶとともに、就職活動の実践例を通して就職活動の具体的な行い方を理解しながら、個人の進路・職業選択に応じた能力を作り上げ、キャリア形成を図っていく。                                                                                                                                                                              |   |   |   | ◎ |   |  | 8,17          |
| インターンシップ    | 2 | 選択 | 本授業のテーマは、国内における民間又は公的組織のインターンシップ(就業体験)であり、企業などでの就業体験を通じて、『仕事をする意味』に気づき理解することを目標とする。また、大学での授業から学んだ企業経営の『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。<br>授業は、個別又は就職活動の疑似面接体験などを含めた事前授業と事後授業、授業期間中に実施される企業(その他の組織体も含む)実習から構成される。事前授業で企業実習にとって最低限必要な業界研究・企業研究の仕方などを解説し座学形式で実施する。また、事後授業では、企業実習後の体験学習を通して気づき、体験を通じて得られた知見などを最終的にはプレゼンテーションできるよう指導する。                                                                                                     |   |   | ○ | ◎ | ○ |  | 8,17          |
| 経営学総論       | 2 | 必修 | 経営学は、基本的には社会の経済活動の担い手たる企業を研究対象として、学際的かつ広範な分野を取り扱っている。企業は「ヒト、モノ、カネ、情報」の4つの資源をうまく活用しながら、モノやサービスに付加価値を付け、それを社会に提供することで利益を獲得し、また経済活動を継続している。それゆえ経営学は社会科学の中でも広い研究分野を持ち、さまざまな学術的知見を活用しながら現在まで発展してきている。その経営学の特徴を理解しながら、自己の考察力、洞察力を深めていってもらう。                                                                                                                                                                                                   | ◎ | ○ |   |   | ○ |  | 4,9           |
| 企業と社会       | 2 | 選択 | 企業は、単に社会の経済基盤やシステムを構成するだけでなく、その活動を通じて社会の仕組みに影響を与えている。社会と企業の相互関係を複眼的に捉え、基本的な知識を身につけながらも、学生個々の社会人としてのあり方について考える機会にしてみたい。日本社会に限らずグローバル化が進化する世界が、どのような仕組みであるかについて理解を深め、これから何を学び、いかに学び、いかに生活していくのかを個々の講義のテーマやトピックを通じて主体的に考えてもらいたい。今、世の中で何が起きているのか? 昨今の企業や経済にまつわるカレント・イシュー(時事問題など)も広く取り上げ、学生個々と社会との接点作りに繋げていきたい。                                                                                                                              | ◎ | ○ |   |   | ○ |  | 1,4,8,9,12,17 |
| ミクロ経済学の基礎   | 2 | 選択 | 本講義は、経済学を始めて学ぶ学生に「ミクロ経済学的思考」を身につけさせる。<br>そのために、以下を習得することを目指す:<br>・ミクロ経済学の基本的な用語や概念を説明できる<br>・個々の経済主体の行動や市場メカニズムを説明できる<br>・ミクロ経済学を現実の経済問題に当てはめ自ら分析することができる                                                                                                                                                                                                                                                                               | ◎ |   |   |   |   |  | 11,12,16      |
| マクロ経済学の基礎   | 2 | 選択 | 本科目ではマクロ経済学に関する基礎的な知識や理論を身に付けて、経済の仕組みや動きを説明できるようにする。<br>本科目で身に付けた基礎的な知識や理論を使って経済に関連するニュースを理解し説明できるようにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ◎ |   |   |   |   |  | 11,12,16      |

|             |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |  |  |  |  |  |          |
|-------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--|--|--|--|--|----------|
| 消費生活と行政     | 2 | 選択 | 消費者政策・消費者行政・消費者経済学・消費者教育論を取り上げ、望ましい消費者行動について考えます。消費者庁『消費者白書』最新年度版から、今、課題になっている事象について具体的に考えます。また、生産者（事業者）のみならず消費者も重視される経済社会の在り方について考えます。よき企業人になるためには、よき生活人でなければなりません。そこで、顧客である消費者のことを理解するために、本講義では、私たち人間にとって最も身近な行動である「消費」を取り上げ、消費者と関連させて社会の問題を考え、生活経済、消費者関連法規などを学びます。                                                       | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 11,12,16 |
| 流通論         | 2 | 選択 | 経済全体の中での流通の役割や流通機構への理解を深める。流通業の基本機能は産地や製造業と消費者を媒介することだが、単にモノを右から左へと流すだけでなく付加価値を加えることが重要になっている。最近、製造小売業が躍進したり、小売業者がPB製品開発に力を入れているのはそうした流れにある。またコンビニチェーンが投機的生産流通から延期的生産流通への転換を通して「市場リスク」問題＝売れ残り削減に取り組むのも同じ流れだ。そうした具体例を説明しながら、いま日本の流通業がどこに向かっているかを明らかにする。                                                                      | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,9,12   |
| デジタルマーケティング | 2 | 選択 | デジタル情報を利用した新しいマーケティングの方法が急速に利用され始めている。マスメディアを中心とする従来のアナログ広告に代わって、インターネットのパナーや検索エンジン、携帯電話を中心とした新しいデジタル広告技術の利用が始まっている。また、カーナビ、ゲーム、SNS、Twitter、デジタルサイネージなど、新しいメディアを利用したマーケティングも行われている。本講義では、インターネットを中心とした新しいマーケティングの分野(デジタルマーケティング)の現状を把握すると共に影響力・可能性の分析を行う。                                                                   | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,9      |
| マーケティングリサーチ | 2 | 選択 | 本講義では、マーケティングリサーチを体系的に理解する。具体的には、マーケティングリサーチの目的の確認、実施の検討、リサーチの設計、データの収集、データの分析、報告という流れで実施される。近年ではさまざまな種類のデータが取得可能となっていること、さらには多くのデータ分析手法も開発されてきていることから、マーケティングリサーチ、それに基づくマーケティング活動/戦略も変化を遂げてきている。これらを実例を交えて紹介することで深い理解と実践力を身に付ける。                                                                                           | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,9      |
| ロジスティクス概論   | 2 | 選択 | ロジスティクスの概念とロジスティクスに関わる用語の理解を深め、企業ロジスティクスについての事例を通して、実社会においてロジスティクスがどのように機能しているかを理解することを目的とする。ロジスティクスという概念が生まれた背景、その必要性、そして実社会でどのように機能しているか、ロジスティクスの機能的側面を踏まえ、政策的側面から見たロジスティクス、産業としてのロジスティクスを事例を交えながら講義する。                                                                                                                   | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,9,12   |
| 初級簿記        | 2 | 選択 | 複式簿記の意義、歴史、しくみを理解した上で、簿記一巡の流れについて説明を行う。具体的には、簿記上の取引、簿記の5要素と財務諸表、勘定の記入法則、試算表の原理、仕訳と転記について詳細な解説を行う。簿記一巡の流れを理解したことを前提に、企業の経営活動に必須の取引に関する会計処理を個別論点として取り上げる。具体的には、現金取引、商品売買取引、代金の受払い（掛け、小切手、約束手形）、債権債務の処理（貸倒れを含む）、固定資産取引について解説する。また決算整理の基本事項として、売上原価の算定、減価償却（定額法）、貸倒引当金の設定、費用収益の見越し・繰り延べについて解説をし、簿記一巡の流れのまとめとする。                 | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |
| 中級簿記        | 2 | 選択 | 複式簿記の基本原則（特に仕訳と転記）を理解していることを前提に、株式会社会計を中心に説明をする。株式会社の意義、歴史、制度を理解した上で、株式会社に関する会計処理を解説する。具体的には、株式会社の設立、株式の発行、利益の計上と処分、株式会社の税金（法人税等、消費税等、その他の税金）を詳細に解説するが、その際、会社法にも触れる。また現在の会計実務はコンピュータによる処理が一般的であるが、その処理体系において補助簿の重要性が増している。このことを勘案し、補助記入帳（現金出納帳、当座預金出納帳、小口現金出納帳、商品有高帳など）と補助元帳（売掛金元帳・買掛金元帳など）の役割と記帳方法について解説する。また伝票会計の基本も説明する。 | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |
| 会計学I        | 2 | 選択 | 会計学は、簿記論と並行して理論と技術の融合を図る目的で、簿記論を補完する目的から、企業会計の公準、一般原則、貸借対照表原則、損益計算書原則などの会計の法規範を土台に会計が成り立っていること並びに、企業経営一般の日常取引や報告書は、すべて会計学の中に出てくる文言や、処理方法で構成されています。よって、会計学の知識を習得することは、経営分野を理解することの第一歩である。テーマとして、「商流の中での位置づけを肌感覚で認識し、自己啓発と創造性を養う」である。                                                                                         | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |
| 会計学II       | 2 | 選択 | 会計IIも簿記論と並行して理論と技術の融合を図る目的で、理論を加味して、社会人基礎力を重視しながら、諸規則を万遍なく理論展開と理論から裏打ちされた、項目別の会計処理と決算財務諸表を読むことの解説を丁寧に説明する。<br>なお、年次決算損益計算書と年次決算損益計算書を作成するために必要な財務諸表の意味と作成方法を修得し、企業において一会計期間での利益や損失の発生する過程を見抜く能力を養う。同時に、商流の中での位置づけを肌感覚で認識し、自己啓発と創造性を養いつつ前に進むことを目的とする。                                                                        | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |
| ファイナンスの基礎I  | 2 | 選択 | 現代の企業活動を理解する上では、ファイナンスの知識は非常に重要なものとなっている。また不確実性を取り扱うファイナンスの知識は社会の様々なものに応用可能である。本授業ではファイナンスの第一歩として、まずは不確実性のない（明示的に考慮しない）世界でのファイナンスについて学ぶ。内容的にはファイナンスを理解するうえで必要な高校数学や記述方法を復習したうえで、初歩的な金融論、金利、債券価格、NPVによる評価手法についての学修する。経営情報学部のディプロマ・ポリシーにおけるDP1の「経営全般における幅広い知識」、並びにDP3の「ヒト・モノ・カネ・情報の活用」に関連した科目であると位置づけられる。                     | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |
| ファイナンスの基礎II | 2 | 選択 | 現代の企業活動を理解する上では、ファイナンスの知識は非常に重要なものとなっている。また不確実性を取り扱うファイナンスの知識は社会の様々なものに応用可能である。本授業ではファイナンスの基礎Iで学んだ内容を前提として、不確実性を考慮する世界でのファイナンスについて学ぶ。内容的には不確実性を取り扱う確率論や統計を復習したうえで、株式投資、株式分析、デリバティブなどについての基礎を学ぶ。経営情報学部のディプロマ・ポリシーにおけるDP1の「経営全般における幅広い知識」、並びにDP3の「ヒト・モノ・カネ・情報の活用」に関連した科目であると位置づけられる。                                          | ◎ | ○ |  |  |  |  |  | 4,17     |

|                   |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |   |   |   |  |   |  |        |
|-------------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--|---|--|--------|
| 経営情報基礎論B          | 2 | 必修 | 情報通信技術は企業活動には欠かせないものとなっており、経営情報分野において情報通信技術についての基本的な知識を身につけることは必須である。<br>情報通信技術の基本知識の中から、経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識である、情報システム戦略、業務プロセス、ソリューションビジネス、システム利用促進・評価、システム企画、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査について取り上げ、理解を深めていく。                                                                                                                                                                    | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,9    |
| 情報システム論           | 2 | 選択 | 情報システム構築に必要な知識、テクノロジーである、情報システムの体系、情報システムの基本概念・構成要素、コンピュータの概要、基本ソフトウェア、ネットワーク、ストレージ、情報システムの役割の変遷、情報システムの処理形態の変遷、クラウド&マルチクラウドの普及、情報セキュリティ、サイバー攻撃、コンピュータネットワーク、TCP/IP、データベース設計・正規化、IoT、機械学習など、基本から時事的な問題・技術について学習する。                                                                                                                                                                                  | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,9    |
| 情報化戦略とマネジメントA     | 2 | 選択 | テーマは、経営情報関連の情報通信技術の基礎である。到達目標は、ITパスポート試験で出題される大分類項目のうち、企業と法務、経営戦略に関する問題の70%を確実に正解できる能力を身につけることである。情報通信技術の進展に伴い、経営情報分野では情報通信技術についての基本的な知識を身につけることが必須であることから、情報通信技術の基本知識の中から経営情報分野での業務を将来行っていく上で身につけておくべき知識を取り上げ、理解を深めていく。                                                                                                                                                                            | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,9    |
| 情報学演習A            | 2 | 選択 | ITとは、たくさんの情報を処理する際に使われる"コンピュータやコンピュータを動かすプログラムの技術"のことである。ITは、私たちの身の回りに深く浸透しており、企業で働く際にもITの知識は必須であると言えます。本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身につけることを目標とする。「ITパスポート試験」の合格のため、テクノロジー系の内容について理解を深める。                                                                                                                                         | ◎ | ○ |   |  |   |  | 9      |
| 情報学演習B            | 2 | 選択 | ITとは、たくさんの情報を処理する際に使われる"コンピュータやコンピュータを動かすプログラムの技術"のことである。ITは、私たちの身の回りに深く浸透しており、企業で働く際にもITの知識は必須であると言えます。本授業では、IT化された社会で働くすべての社会人が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である「ITパスポート試験」に合格するレベルにまで達する幅広い分野の総合的知識を身につけることを目標とする。ITパスポート試験の合格のため、ストラテジ系およびマネジメント系の内容について理解を深める。                                                                                                                                  | ◎ | ○ |   |  |   |  | 9      |
| 情報理論              | 2 | 選択 | テーマは、情報理論の基礎である。2進数、8進数、10進数、16進数の基数変換、数値および文字データの表現方法、数値演算の誤差、論理演算についての知識が確実に身につくようにする。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される情報理論に関する問題の70%を確実に正解できる能力を身につけることである。コンピュータ科学の基礎のうち、情報の基礎理論として、数値変換とデータ表現については基数変換、数値表現、非数値表現、演算と精度を、情報と論理については論理演算、論理回路（具体的にはALUの構成回路）を中心に考察する。最後にグラフ理論を取り上げる。                                                                                                                        | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,9    |
| 情報ネットワーク論         | 2 | 選択 | インターネットに代表される情報ネットワークは、日常生活や経済活動、政治活動など社会の様々な面で活用され、現代社会の重要なインフラストラクチャの一つとなった。本講義では、情報ネットワークについての基礎的知識を身に付ける。情報通信の歴史やネットワークの仕組み、インターネットで利用される通信規約・使用機器とその性質などを理解する。情報通信技術は日々進歩するが、根本は変化することも陳腐化することもない。（OSI基本参照モデルとTCP/IP、有線・無線通信、短距離・長距離通信、暗号化通信などの基本的考え方など）第4次産業革命の中核技術であるIoTやAIとネットワークの関係についても触れる。将来、情報通信分野で活躍したい者ばかりでなく、社会活動で情報通信技術を役立てたい者まで、幅広い目的をもつ者を対象とする。                                   | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,9    |
| グローバル・コミュニケーション総論 | 2 | 選択 | 急速に進んでいるグローバル社会において必要とされるコミュニケーションの基礎理論と知識を学修する。さらにヒト・モノ・カネ・情報のグローバル移動が容易になり、海外とビジネスを行う機会が増えている中で、コミュニケーションや文化はどのような役割を果たしているかについて理解する。そして他者と協働し、問題解決にあたってのコミュニケーションスキルを学び、グローバル組織で最も大切な双方向でのコミュニケーション能力を養うことを目標とする。テーマとして、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特徴と仕組み、マーケティングにおけるコミュニケーションの方法やロボット・AIと人間とのコミュニケーションの関係を学ぶ。本講義の学修は本学部DP3の「多様な価値観について理解し、異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる」の実現に寄与する。 | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,5,17 |
| 会計学               | 2 | 選択 | 会計は、企業などの経済主体を取り巻く利害関係者の財務的な意思決定に有用な情報を提供するために、特定の経済主体の経済実態を主として貨幣額で測定し伝達する行為又はシステムである。こうした会計行為を対象とする学問である会計学は、簿記論、財務会計論、会計監査論、原価計算論、管理会計論などと広範囲であり、しかも密接に関連し合っている。本授業では特に、企業に就職したいと考えている学生に役立つように、実践的な例題の反復練習を通じて応用的な課題へと授業内夜を展開していく。毎回のテーマに沿って事前学習のための資料を提示し、企業会計上の課題を明示しながら学修していく。復習として小テストを実施する。                                                                                                | ◎ | ○ |   |  |   |  | 4,17   |
| 経済学入門             | 2 | 選択 | 現実の社会は複雑であり、社会問題に対する唯一の答えを導く唯一の手法など存在しないが、経済学の基礎を身につけることは、世の中のしくみを理解し、自分の頭で思考することにつながる。さらに、世の中に溢れる玉石混交の情報に対して疑問を持ち、自分の考えを述べる事ができるようになる。多くの人は、経済学は難しいという印象を持っているかもしれないが、経済学は選択の方法を学ぶ学問でもある。本講義で学ぶ経済学的思考方法は、経済だけでなく経営学、身近な生活、そして人生の選択においても応用できるであろう。                                                                                                                                                  |   | ○ | ◎ |  |   |  | 8      |
| 経済原論A             | 2 | 選択 | 本講座では経済学の基礎的な知識の習得を目標としている。とりわけ現代の経済にいたるまでの歴史的推移、市場メカニズムの仕組み、それを取り囲む政治制度、市場に関わるステークホルダーの行動などについて詳細に話していきたい。本講義では『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。現代社会を理解しようとするとき、やはりその背景にある大きな歴史的流れをつかんでおくことが必要である。本講義を通じて現在の社会が置かれている位置づけと方向性について一定の理解を得られるよう幅広い内容で講義を行っている。                                                                                                                                          | ◎ | ○ |   |  | ○ |  | 1,8,10 |

専門基礎科目群

|          |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |   |   |   |   |         |
|----------|---|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---------|
| 経済原論B    | 2 | 選択 | 本講座で、経済原論aで学んだ基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。本講義では経済原論a同様に『教養としての政治経済』という著作を中心に講義を進めていく。テーマとしては後半の近現代社会の諸問題が中心となる。この講座を受けえることにより、さらに高学年において学ぶ専門科目、あるいはゼミなどで学びにスムーズに対応できると同時に、現実的な社会問題についてより深い視座を獲得できるものと考えている。                                                                                                                                                                | ◎ | ○ |   |   | ○ | 1,8,10  |
| 法律学概論    | 2 | 選択 | 社会の基盤を支える法律制度の基礎から学習していく。社会人としての法の常識を身につけて頂くことを本講座の目標となります。法とは何かを初めに、法と裁判—日本の裁判制度と法解釈、さらに日本の法体系の中、いくつか重要な実定法である日本国憲法、刑法、民法、商法、独占禁止法や労働に関する法規等を紹介する予定。その外、国際司法制度の基礎知識も学習していく予定。また、学習内容をより理解してもらうため、近時の判例も随所に紹介する予定。健全な市民社会の一員、また将来ビジネスマン等として、法律について一通りの常識を身につけておく必要があることを念頭に、法とは何か、法と裁判、国家と法、家庭生活と法、経済活動と法等といった基本的なテーマについて、身近な事例をとりあげながら、講義する。同時に、本講座においては、公務員試験などの資格試験を目指す者に対して、ミニマムな知識を修得することができるよう、内容を配慮する。 |   |   | ○ | ◎ |   | 16      |
| 日本の歴史A   | 2 | 選択 | 日本の前近代史の展開について、テーマごと（予定：日本史の時代区分、日本のルーツを求めて、天皇とは何か、古代日本の国内・国際関係、仏教と国家、都としての京都 貴族の形成、武士の誕生、鎌倉時代の仏教者たち、日本の伝統文化の形成、戦国大名の時代、江戸時代の政治と社会、鎖国とは何か、戦なき世の武士たち、江戸の文化的遺産、幕末への道）に概説する予定である。文化や思想の歴史についての理解が深まるように工夫する。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。授業のなかでは適宜歴史を語る史資料も適宜紹介する。                                                                                                                     |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 日本の歴史B   | 2 | 選択 | 日本の近現代史の展開について、政治史を中心に概説する（予定：日本近現代史をとらえる視点、明治維新の前提、幕末の動乱、明治政府の成立、岩倉使節団と明治政府の分裂、自由民権運動、明治憲法体制、日清・日露戦争、「大正デモクラシー」の時代、昭和初期の政治、戦時下の社会、占領下の日本、55年体制への道、高度経済成長の光と影を考える、日本はどこへ行くのか）。適宜、文化や思想の歴史にも触れる。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。授業のなかでは適宜歴史を語る史資料も適宜紹介する。                                                                                                                               |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 外国史概説    | 2 | 選択 | この講義では、アジアと世界の現在を理解するために、マカオ（澳門）・香港というふたつの植民地の歴史的な展開から見た広い意味での東西交流史・東アジア近現代史を世界史的な視点から学習する。明清期及び中華民国期のマカオ・香港史を通して近代東アジア（東南アジアを含む）における植民地の歴史的意義について考究しながら、地球規模の貿易と文化交流の拡大を南アジア史・ヨーロッパ史・南北アメリカ史も視野に入れて講義する。政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類の発展を概観する。授業形態は基本的には講義であるが、素材のビデオなどを見て討論することもある。                                                                                                    |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 地理学A     | 2 | 選択 | 地球の歴史、構造、気候、自然環境及び地形から、そこに住む人々の生活営みから、地理学を学ぶ。つまり、人間活動以外の部分である自然地理と人間が作り上げてきた或いは深く関わってきた環境、両面から地理学を学習する内容で授業を展開する。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 地理学B     | 2 | 選択 | 人文地理学の理論と方法、人間生活、経済活動、現代的諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では、地理学の科学としての展開や主要概念、研究の手法等について学ぶ。人間生活では、人間による環境認知や居住空間の構成等を、経済活動では、大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。現代的諸課題については、現在及び将来の人類にとって解決すべき課題である、移民や民族、不平等、環境破壊、自然災害等の問題への人文地理学からの取組を学ぶ。                                                                                                                                                                                   |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 地誌       | 2 | 選択 | 日本及び世界におけるさまざまなスケールの地域を取り上げて、地誌学の方法とともに、人々が生活を営む各地域の特徴について考察し理解を深める。指定された世界の国または地域のうちから1つ選んで、地誌を試作して発表することにより、地誌作成の方法を身につける。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |   |   |   | ◎ |   | 4       |
| 政治学入門    | 2 | 選択 | 主権を持つ国民国家のシステムは17世紀のヨーロッパに誕生したが、人の集団が互いの安全や福祉のために協力したり、議論したり、誰かに決定権を委ねるといったことは太古から行われてきた。これらは広い意味での「権力作用」であり、「政治現象」である。権力について考察を加える政治学が最も古い社会科学のひとつである所以である。本講義では「国家と政治」を学問的に読み解くための基本的な道具・枠組みを提供したい。みなさんが、政治的な判断や行動、例えば投票行動、を正しい知識と適切な合理性のもとに選び取ることができるようになれば幸いである。                                                                                                                                          |   |   |   | ◎ | ○ | 16      |
| アロマセラピーⅠ | 2 | 選択 | アロマセラピー（芳香療法）は植物から抽出された精油を用いる自然・植物療法であり、心身のセルフケアはもちろん、医療や福祉分野などにおいても活用されている。本講義では、精油についての基本的事項、香りを感じる嗅覚のしくみ、香りの歴史、アロマセラピーに関わる法律、解剖生理学などについてテキストやDVDを用いて幅広く学習するとともに、精油を用いた実習を行いアロマセラピーを体験する。また香りの学びを通して、持続可能な社会の構築（自然と人間との共生）、生態系における香りの役割、スポーツやビジネス分野、地域における香りの活用などについても理解を深める。アロマセラピーⅠおよびアロマセラピーⅡの履修後、希望者には日本アロマコーディネーター協会(JAA)が認定する「アロマコーディネーター」の受験資格を与える。                                                  | ◎ |   |   |   | ○ | 3,12,15 |
| アロマセラピーⅡ | 1 | 選択 | アロマセラピーⅠでアロマセラピーの基本を学んだうえで、アロマセラピーⅡではさらに日々の生活で実践できる技能を身につける。リラクゼーションやストレスコントロール、また自律神経系、内分泌（ホルモン）系、免疫系などのアロマセラピーが得意とするケアについて理論的および実践的に学ぶ。アロマセラピーⅠおよびアロマセラピーⅡの履修後、希望者には日本アロマコーディネーター協会(JAA)が認定する「アロマコーディネーター」の受験資格を与える。                                                                                                                                                                                        | ◎ |   |   |   | ○ | 3,12,15 |

|                                            |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |  |   |  |   |           |
|--------------------------------------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|---|--|---|-----------|
| スポーツ科学C                                    | 1 | 選択 | <p>スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。ところが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。</p> <p>スポーツ種目は、ティー（ソフト）ボール、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、ゴールボール、ベタンク、グラウンドゴルフ、アルティメット、フラッグフットボールなどから3-4種目を行う。</p> <p>また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけられるようにする。</p> | ○ |  | ◎ |  |   | 3, 10, 16 |
| スポーツ科学D                                    | 1 | 選択 | <p>スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。ところが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。</p> <p>スポーツ種目は、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、インディアカ、インディアカ、テニス、アルティメット、テニス、ソフトボール、レクリエーションまたはアダプトスポーツなどから複数行う。</p> <p>また、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法でスポーツ・運動を実践する習慣を身につけられるようにする。</p>       | ○ |  | ◎ |  |   | 3, 10, 16 |
| 心と身体の科学                                    | 2 | 選択 | <p>人間の身体は、生まれてから約20年かけて完成し、その後徐々に機能が低下していく。また人間の人格は、さまざまな危機を解決しながら心理社会的に発達していく。この授業では、人間が加齢に伴って、身体的にどのように発達・発達、老化していくのか、また心理社会的にどのように発達していくのかを学ぶ。特に、スポーツや運動が心と身体の問題にどのような影響を及ぼすのかについて考えていきたい。身体の科学として、老化のメカニズムについて学習し、ライフステージに応じた運動の方法を探る。心の科学として、メンタルヘルス、精神障害、発達障害についての基礎知識を学ぶ。この授業を通して、自分や周りの人の心と身体の問題を、科学的に考えていくことができる能力を養う。</p>                                                                             | ◎ |  |   |  | ○ | 3         |
| 健康管理概論                                     | 2 | 選択 | <p>これまでは、疾病を早く見つけることに焦点が当てられていたが、現在では、疾病を防ぎ、さらに健康を増進する方向へシフトしている。本授業では、現代を取り巻く社会環境と健康との関係を明らかにした上で、主に疾病（生活習慣病など）および健康の維持増進が、運動とどのように関わっているかについて理解することをねらいとする。授業を通じて、健康増進に対するこれまでのあゆみや、日本の施策や法律を学び、各国と比較して検討したり、近年のITを用いたパーソナルヘルスレコードやSNSを用いた健康増進について学んだりする。受講後は、保健体育教員および健康運動実践指導者などの立場から健康と運動との関連について専門用語などを用いて説明することができるようにする。</p>                                                                            | ◎ |  |   |  | ○ | 3, 11     |
| Basic Writing Skills I                     | 2 | 選択 | <p>In each class students will study an aspect of writing from the class textbook, then practice the skills learned through short writings. In addition, the students will complete in-class writing assignments related to their textbook assignments. At the end of the course, students will submit a portfolio of their work.</p>                                                                           |   |  | ◎ |  |   | 4         |
| Intermediate Practical Discussion Skills I | 2 | 選択 | <p>As a speaking, conversation and discussion course, students will have the opportunity to speak and discuss with partners in pairs and small groups. Through ongoing practice students will leave the course with more confidence in their speaking, discussion and listening skills.</p>                                                                                                                     |   |  | ◎ |  |   | 4         |
| Intermediate Reading Skills I              | 2 | 選択 | <p>Students will read texts from magazines and newspapers, exploring high-interest issues and taking part in discussion activities relating to the content and topic of the reading passages. Students will answer comprehension quizzes about the readings and be tested on the new vocabulary items that are necessary to understand the reading passages in the textbook.</p>                                |   |  | ◎ |  |   | 4         |
| 日本語 III                                    | 2 | 選択 | <p>学部につながる学び：上のレベルへのステップアップ：上のレベルにつながるために4技能を総合的に学ぶ。「読む・書く・聞く・話す」という4技能の学びを通してプレゼンテーションや小論文で成果をはかる。この授業では、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。学んだ言語知識を実際に使えるようにするために自分の言葉でまとめたり、意見を述べたりできるようにする。最後は発表したり議論したりして学びの成果をまとめる。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。その他：クラスは複数開講する（プレイズメントテストの結果でクラス分けを行い、少なくともN2レベルとN1レベルの2つ以上に分ける。N1を持たない学生はN1を目指す。対面2+反転授業「旧カリ：オンデマンド」）。</p>                                                            |   |  | ◎ |  |   | 4         |
| 統合日本語 III                                  | 2 | 選択 | <p>学部につながる学び：内容言語統合型学習（CLIL）の4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の学習方法を用いる。</p> <p>この授業でも学習者は能動的に参加し、協働学習を通じて、発話力や表現力を養う。この授業ではオーセンティックな言語素材から言語を学ぶ。SDGsなど世界の話題について統合的に学んでいく。</p> <p>その他：言語素材は共通で、レベル別（ただし言語素材は共通）にして、成果を可視化する。クラスを複数開講（プレイズメントテストの結果でクラス分け）し、少なくともN2レベルとN1レベルの2つ以上に分ける。対面2+反転授業（旧カリ：オンデマンド）。</p>                                                                                                           |   |  | ◎ |  |   | 4         |
| ビジネス日本語 I                                  | 2 | 選択 | <p>社会とつながる学び：N1合格相当を対象とする。</p> <p>この授業では、ビジネスマナーの基本、敬意表現と機能表現などを学ぶ。そして、ビジネス場面から会話文やマナーを学ぶ。そして、企業文化などは、ケーススタディを読んだりディスカッションしたりする。ビジネスに関する語彙やクッション言葉なども学ぶ。授業外では、毎回、4時間以上の課題と復習が必要。対面2+反転授業（旧カリ：オンデマンド）。</p>                                                                                                                                                                                                       |   |  | ◎ |  |   | 4         |

|                                |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |  |   |  |  |  |      |
|--------------------------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|---|--|--|--|------|
| ビジネス日本語Ⅱ                       | 2 | 選択 | <p>社会とつながる学び: N1合格相当を対象とする。</p> <p>この授業では、アポイントの取り方、会議に参加する、クレームを受ける・報告する・処理する、会議で提案する、催促する、交渉するなどのビジネス場面から会話を学ぶ。そして、企業文化などは、ケーススタディを読んだりディスカッションしたりする。ビジネスに関する語彙や前置表現、敬意表現などを学ぶ。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。対面2+反転授業(旧カリ: オンデマンド)。</p>                                                                                                                                                           |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| キャリア日本語A (就職)                  | 2 | 選択 | <p>社会とつながる学び: ビジネスコミュニケーションのためのケーススタディや就職のための日本語(履歴書、面接、企業分析)を学ぶ。この科目は、社会に出るための準備クラス。この授業では就職のための日本語(履歴書の書き方、面接の仕方、企業分析、エントリーシートの書き方)を学ぶ。また、授業では、コミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを中心に授業を進める。また、協働で学び合う力も養う。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。対面2+反転授業(旧カリ: オンデマンド)。</p>                                                                                                                   |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| キャリア日本語B (進学)                  | 2 | 選択 | <p>学部・社会とつながる学び: 論文作成及び、大学院受験のための日本語(大学院分析、研究について、論文の書き方・読み方、面接)について学ぶ。</p> <p>この授業は、大学院進学のための必要なスキルと論文の書き方を主に学ぶ。具体的には、大学院の探し方、大学院の分析、資料の取り寄せ方、志望動機の書き方などを学ぶ。専門については、学習者が自ら資料を探し、発表し、学部で身につけておかなければならない自分の専門について、語れる、発表できる、論じられる内容の知識を身につける。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要。対面2+反転授業(旧カリ: オンデマンド)。</p>                                                                                                |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Fundamentals of Japanese A     | 4 | 選択 | <p>This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.</p> |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Fundamentals of Japanese B     | 4 | 選択 | <p>This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.</p> |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Fundamentals of Japanese C     | 4 | 選択 | <p>This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.</p> |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Fundamentals of Japanese D     | 4 | 選択 | <p>This course is intended to give you the opportunity to make the most of your chance to speak and interact in Japanese while you are here in Japan. Accordingly, your transition from textbook Japanese to more practical 'survival' Japanese will be guided by both the Genki course textbook as well as materials we will prepare with regard to the Survival Japanese class periods.</p> |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Intermediate Japanese Skills A | 4 | 選択 | <p>This course is intended to provide students the opportunity to enhance students' four skills and also to utilize intermediate-level grammar and structural patterns in real life situation. Students should be able to read and write materials beyond beginning-level Japanese.</p>                                                                                                       |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| Intermediate Japanese Skills B | 4 | 選択 | <p>This course is intended to provide students the opportunity to enhance students four skills and also to utilize intermediate-level grammar and structural patterns in real-life situations. Students should be able to read and write materials beyond beginning-level Japanese.</p>                                                                                                       |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| JLPT Preparation A             | 2 | 選択 | <p>教科書の語彙と漢字と文法を学び、実際のコミュニケーションで使えるように、練習する。それらを定着させるために、授業の前に2時間の予習と、授業の後に2時間の復習をする。</p> <p>Students will learn vocabulary ,kanji and grammar from textbooks and practice them so that they can be used in actual communication.</p> <p>In order to establish them, students will prepare for 2 hours before class and review for 2 hours after class.</p>                                   |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| JLPT Preparation B             | 2 | 選択 | <p>読解では語彙の把握から始まり、文、文章へと広げていく。読解で培った文章力を活用してまとまった文章を書いて発表する。聴解では学んだことを活用して自ら発信することが求められる。このクラスは、週2回の授業を対面で行う。毎回4時間程度の課題と復習が求められる。また、毎回小テストを行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |   |  | ◎ |  |  |  | 4    |
| ゲーム理論                          | 2 | 選択 | <p>ゲーム理論は、数学者のジョン・フォイ・ノイマンと経済学者のオスカー・モルゲンシュテルンによる『ゲームの理論と経済行動』を起源とする学問であり、複数の利害関係者が関わる状況における人間の行動や制約を数理的に解析する手法を提供する。幅広い分野に応用が可能であり、特に経済学はゲーム理論なしには語れないと言っても過言ではない。本授業ではゲーム理論の基礎的導入から出発し、さまざまな具体的事例についてディスカッションを行い、理解を深めることを目指す。授業の前半では特に非協力ゲーム理論について学修し、時間が許せば、協力ゲーム理論についても扱う。</p>                                                                                                           | ◎ |  |   |  |  |  | 4,9  |
| 行動経済学                          | 2 | 選択 | <p>行動経済学は、古典的な経済学に心理学の要素を取り入れた、比較的新しい学問である。従来の経済学では、対象となるモデルの解析を簡単にするために「人間の行動は合理的である」ことを前提としてその研究を行ってきたが、人間の行動は必ずしも合理的ではなく、現実の経済活動とモデルの間にギャップがあった。行動経済学は「人間の行動は必ずしも合理的でない」ことに焦点を当て、より現実に即した人間の経済活動を可能にする。本授業ではそのような行動経済学の基礎を理解し、行動経済学的観点から実際の経済活動の分析を行う。受講生には行動経済学がマーケティングや広告などへ応用されている具体的な事例についての調査を行ってもらい、グループディスカッションや発表を通して、その理解を深めることを目指す。</p>                                          | ◎ |  |   |  |  |  | 4,17 |

|              |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |   |  |  |   |         |      |
|--------------|---|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--|--|---|---------|------|
| 経営戦略論        | 2 | 選択 | 本講義では、伝統的経営戦略論の理論や研究成果を中心に、経営戦略論を体系的に理解・修得し、戦略的に思考することの意味について一緒に考えていきたい。また、これまでの研究で蓄積された良質な事例を紹介しながら、経営戦略の実践的なテーマやトピックについても扱い（授業計画を参照のこと）、理論と実践の両面から理解を深めていく。講義の節目で講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、ケーススタディを取り入れる予定である。                                                                                                    | ○ | ○ |  |  | ◎ | 9,12,17 |      |
| 人的資源管理論      | 2 | 選択 | 人事労務管理に関する理論の概要について知識として修得する。その上で、当該各理論が実社会においてどのように活用可能かについて、実体験（アルバイト、インターンシップなど）を踏まえながら、自分の言葉で具体的に説明できるようにする。                                                                                                                                                                                                  | ◎ | ○ |  |  | ○ | 8       |      |
| 経営組織論        | 2 | 選択 | 本講義で経営組織論の理論や研究成果(事例研究など)を中心にヒトや組織のマネジメントを体系的に理解・修得し、身近なヒトや集団・組織に対する理解や考察を深めていく契機にしていきたい。ヒトや組織のマネジメントに関する実践的なテーマやトピックについて理論と実践の両面から理解を深めていく。また、講義の節目で講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、ケーススタディを取り入れる予定である。受講生個々のヒト・組織観の熟成や複眼思考の養成に繋げたい。                                                                                     | ○ | ○ |  |  | ◎ | 8,9,17  |      |
| 組織行動論        | 2 | 選択 | 組織行動に関する理論の概要について知識として修得する。その上で、当該各理論が実社会においてどのように活用可能かについて、実体験（部活動・サークル活動、アルバイト、インターンシップなど）を踏まえながら、自分の言葉で具体的に説明できるようにする。                                                                                                                                                                                         | ◎ | ○ |  |  |   | 4,9     |      |
| 消費者行動論       | 2 | 選択 | 日々私たちが行う消費という行為がどのようなメカニズムで生じているのかを、自分の頭で考えるきっかけを提供することが本講義の大きな狙いである。ただ「お勉強」するのではなく、自分の行動も含め、概念や理論を具体的な消費現象に当てはめてみて分析できるようになることを目指す。                                                                                                                                                                              | ◎ | ○ |  |  | ○ | 4,16    |      |
| 国際マーケティング論   | 2 | 選択 | マーケティングの基礎を学び、国際マーケティングにおける諸問題を考察することを授業の狙いとしいる。そして、企業の経済活動と国際経済の関係について学び、国境を超えて活動する多国籍企業の動向を学ぶことを通じて、広い視野から物事を判断できるようになってもらいたい。多国籍にビジネスを展開する企業のマーケティングとは如何なるものなのかを考え、また企業はどのような問題に直面し、どのように問題を解決しているのかを学ぶ。国際マーケティングの思考方法を習得しながら、受講生のビジネススキルの向上にも役立つ授業としたい。講義のみでなく、討論やケーススタディなども導入して、受講生が関心をもって授業に取り組めるように心がけていく。 | ◎ | ○ |  |  |   | 8,9,12  |      |
| マーケティングサイエンス | 2 | 選択 | 有効なマーケティングを実行するためには、データを活用することが求められてきている。本講義では、そのデータ分析に用いられる手法を学習し、身に付けることで実践的な能力を養うことを目的としている。                                                                                                                                                                                                                   | ◎ | ○ |  |  |   | 4,9     |      |
| ブランド戦略論      | 2 | 選択 | 本講座では理論とケースから、ブランドについての理解を深め、以下の3点を目標とします。<br>・ブランドに関連する理論と基本的な概念を理解し説明できる。<br>・企業のブランドへの取り組みについて、自分なりの分析と解釈が述べられる。<br>・自分なりのブランドに関する戦略が提案できるようになる。                                                                                                                                                               | ◎ | ○ |  |  |   | 4,9     |      |
| 国際ロジスティクス論   | 2 | 選択 | 貿易論的、物流論的、情報ネットワーク論的な視点から国際ロジスティクスを学習する。また、国際ロジスティクスをビジネスとする企業を取り上げ解説していく。講義内容は①貿易、②物流、③情報ネットワークと情報交換（EDI）、④国際ロジスティクスビジネスで構成される。                                                                                                                                                                                  | ◎ | ○ |  |  |   | 4,9,12  |      |
| 会社法A         | 2 | 選択 | 会社法は千を超える条文によって構成され、学習範囲が極めて広いため全ての部分を講義できないが、会社法の重要なテーマである設立、株式、機関制度などのテーマを中心にメリハリをつけて講義していく予定。講義を受講する諸君に対し、受講内容をより理解してもらうため、会社法は学生にとっては理解しにくい法律と思われることから、授業では指定した基本テキストを使用。また、理解を助けるため、予習を課すると共に、毎回講義の最初に前回内容を復習する意味で、無作為質問や小テストの実施が予定されているため、復習も求められる。                                                         | ◎ |   |  |  | ○ | ○       | 16   |
| 会社法B         | 2 | 選択 | 会社法の基本的知識を習得することを目標とする。<br>会社法の基本的知識を身につけると、実社会に出てからも役立つ場面が多くあり、非常に有用となる。毎回の授業で課題も課すので、これらを通じて会社法の基本的知識の習得を心がけてほしい。<br>なお、授業の紹介動画のリンク先及びパスワードは、次のとおりである。                                                                                                                                                          | ◎ |   |  |  |   |         | 16   |
| 税法A          | 2 | 選択 | 税法（租税法）とは、法人税法や所得税法といった租税に関する法を総称したものである。税金は私たちの生活とは切り離せないものなのだが、税法（租税法）は憲法や民法などと比較すると、なじみの薄い法律ともいえる。しかし、私たちにとって最も身近な法律でもある。授業では、法人税法及び消費税法に関して、難解といわれる法律用語をできる限り簡単に説明し、皆さんが興味をもてるような具体的な事案を通じて税法（租税法）の理解を深めていく。税法（租税法）に関するさまざまな事案を一緒に考えていく。                                                                      | ◎ |   |  |  | ○ | ○       | 16   |
| 税法B          | 2 | 選択 | 税法とは、法人税法や所得税法といった税に関する法を総称したものである。税は私たちの生活とは切り離せないものであるが、税法は民法や会社法などと比較すると、なじみの薄い法律ともいえる。しかし、私たちにとって最も身近な法律でもある。この授業では、税に関する理論を理解し、特に個人に対する税に関して、難解といわれる法律用語をできる限り分かり易く簡潔に解説し、学生の皆さんが興味をもてるような具体的な事案を通じて税法への理解を深めていく。                                                                                            | ◎ |   |  |  | ○ | ○       | 16   |
| 財務諸表論A       | 2 | 選択 | 財務諸表論は、株式会社の成立要件を十分に理解するとともに、現行の制度会計の視点から企業会計原則および会社計算規則を基本原理とし、それに基づく企業財務の考察を通して、財務諸表の作成を法令との関連から包括的に理解する。<br>なお、「現行の減価償却制度と2007変更新法人減価償却制度の比較検討」をテーマとし、物の本来価値を肌感覚で体得する事を目標としている。                                                                                                                                | ◎ |   |  |  |   |         | 4,17 |



|                  |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |   |   |  |  |  |   |      |
|------------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--|--|--|---|------|
| 財務諸表論B           | 2 | 選択 | 財務諸表論bを修得した学生を対象にして、「理論と並行した実践」をテーマに掲げ、企業の置かれている現状を把握したうえで、企業の資産評価から金融商品に係る会計基準までを、実務中心に理解する事を心がけ実践して行く事で、国際社会の中で日本の企業が置かれている立場や、今後の課題についても考察していく。<br>なお、体系的な理解が深まる様に範例の内容を精選し、自己啓発と創造性を養いつつ学生個々が自己目標に挑戦する事を望んでおります。同時に、商流の中での位置づけを肌感覚で認識し、前に進むことも切に願う。                                                                                                               | ◎ |   |  |  |  |   | 4,17 |
| 財務会計特論           | 2 | 選択 | アクティブラーニングを中心とする。連結等の有価証券報告書を読みこみ等をテーマとする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,17 |
| 原価計算論I           | 2 | 選択 | 原価計算の主要な目的は、それぞれの時代の利害関係者の情報要求によって、大きく変化し現在に至っている。原価計算は実務に直結する学問である。しかし、計算ができればそれだけでよいというものでもない。算出した数字が意味するものを知らなければ、正しい意思決定を行うことはできない。数字が意味するものを知るためには、計算の根底にある理論も理解しなければならない。この授業では、さまざまな目的による原価計算の基本的な理論を理解し、具体的な計算方法を修得することを目標とする。学習するテーマは、原価概念・費目別計算・製造間接費の配賦・製品別計算を対象とする。                                                                                       | ◎ | ○ |  |  |  |   | 4,17 |
| 原価計算論II          | 2 | 選択 | 原価原価原価計算の主要な目的は、それぞれの時代の利害関係者の情報要求によって、大きく変化し現在に至っている。この授業では、さまざまな目的による原価計算の基本的な理論を理解し、具体的な計算方法を修得することを目標とする。学習するテーマは、総合原価計算の応用・原価管理・利益管理・CVP分析の基本を対象とする。                                                                                                                                                                                                             | ◎ | ○ |  |  |  |   | 4,17 |
| 管理会計特論           | 2 | 選択 | 管理会計の考え方や基礎知識を習得し、基本的な計算問題も解けるようになることを目標とする。管理会計の知識や考え方を身につけると、実社会に出てからも役立つ場面が多くあり、非常に有用となる。<br>具体的には、学習した論点につき、日商簿記2級（工業簿記部分）や日商簿記1級（工業簿記・原価計算）レベルの問題が解ける程度の知識を身につけることとする。                                                                                                                                                                                           | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,17 |
| 財務分析A            | 2 | 選択 | 財務分析とは、財務諸表を用いて対象企業の経営状況を診断することを指し、典型的な「会計情報を使う」分析技術となる。金融機関や事業会社の経理・財務部門においては、こうした分析技術によって各会社の収益性・流動性・成長性・生産性の視点から財務分析を行っており、その業務の根幹をなしている。会計分野を専攻する学生はもちろんのこと、他分野を専攻する学生にとっても有用である。本授業では経営分析論の基礎的な知識を身につけ、実際の財務諸表から各種の指標を用いて簡単な経営分析を行えるようになることを到達目標とする。本授業は経営情報学部のディプロマ・ポリシーにおけるDP1の「経営全般における幅広い知識」、並びにDP2の「経営にかかる分析ができ、新しい視点に立って経営活動に携わることができる」と関連した科目であると位置づけられる。 | ◎ | ○ |  |  |  |   | 4,17 |
| 財務分析B            | 2 | 選択 | 財務分析とは、財務諸表を用いて対象企業の経営状況を診断することを指し、典型的な「会計情報を使う」分析技術となる。金融機関や事業会社の経理・財務部門においては、こうした分析技術によって各会社の収益性・流動性・成長性・生産性の視点から財務分析を行っており、その業務の根幹をなしている。会計分野を専攻する学生はもちろんのこと、他分野を専攻する学生にとっても有用である。本授業では経営分析論の基礎的な知識を身につけ、実際の財務諸表から各種の指標を用いて簡単な経営分析を行えるようになることを到達目標とする。本授業は経営情報学部のディプロマ・ポリシーにおけるDP1の「経営全般における幅広い知識」、並びにDP2の「経営にかかる分析ができ、新しい視点に立って経営活動に携わることができる」と関連した科目であると位置づけられる。 | ◎ | ○ |  |  |  |   | 4,17 |
| ファイナンシャルプランニング論A | 2 | 選択 | ファイナンシャルプランニングの基礎およびFP資格6教科の中で2教科を重点的に学ぶ。まず、ファイナンシャルプランニングの必要性と、その手法について理解し、FPの社会的意義について学ぶ。次にお金の時間的価値について金利計算や、資金計画に必要な係数の利用方法を、実際に計算問題を読ながら理解を深める。さらに、国の社会保障制度の理解では現在の医療、年金制度を学びながら、その問題点や社会問題として議論されている点に関して深い考察ができるようにする。税金の知識では、我が国の税体系と制度、実際の所得税の計算方法を学ぶ。講義を通して、単に知識を習得するのではなく、国の諸制度を理解しその背後にある社会問題など、社会の構成員の一人として国の政策制度にしっかりと意見ができるようになることも本講義の到達目標である。         | ○ | ◎ |  |  |  | ○ | 12   |
| ファイナンシャルプランニング論B | 2 | 選択 | 本講義ではFP論Aに引き続きFP検定6科目のうち4科目（リスクマネジメント・金融資産運用・相続・不動産）を重点的に学習する。どの分野も今後の生活にかならず訪れる欠かせない事柄であり、日々国の制度や状況も変化していることからしっかりと理解を深めたい分野である。リスクマネジメントでは保険の基礎知識から必要保障学の算出方法を修得する。次に金融資産運用では、各種金融商品とそのリスクについて正しい知識を学ぶ。これら知識の修得は望ましい金融行動につながる。人生100年時代の今後の私達の生活に必要な資金をどう運用し活用するか包括的に学ぶ。相続や不動産の知識は実際に遭遇した際には必要な知識であるが、超高齢社会における今後の新しいビジネスモデル構築にも必要な知識である。さまざまな職種を希望している学生に履修してほしい。   | ○ | ◎ |  |  |  | ○ | 12   |
| コーポレートファイナンス     | 2 | 選択 | 授業の到達目標は、ファイナンスやコーポレート・ファイナンスに関する基本的な用語の意味を理解し、事業評価や企業価値評価などで利用される基本的な評価モデルを使って簡単な企業価値評価ができるようになることである。現代の多くの企業にとって様々な財務活動は、経営上で必要不可欠な行為となっている。企業がどのように資本を調達し運用するか、その結果として企業の価値(株価)がどのように向上するのか？それらを本授業では明らかにしていく。本授業は経営情報学部のディプロマ・ポリシーにおけるDP1の「経営全般における幅広い知識」、DP2の「経営に係る分析ができ、新しい視点に立って経営活動に携わること」、DP5の「正しく状況を把握し、課題を発見し、解決に努めること」に関連した科目であると位置づけられる。                | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,17 |
| インベストメントファイナンス   | 2 | 選択 | 20世紀の半ばに確率されたMPT(Modern Portfolio Theory)の確率は投資の方法を大きく変えた。本授業ではマーコウィッツの平均分散モデルの理解を図ったうえで、CAPM導出の理論を理解する。またこうした市場モデルが機関投資家の投資戦略にどのような影響を与えたのかについての理解を図る。                                                                                                                                                                                                               | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,17 |

|               |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |   |  |  |  |   |      |
|---------------|---|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--|--|--|---|------|
| ファイナンス特論      | 2 | 選択 | アクティブラーニングを中心とする。近年の金融市場に重きをなす金融派生商品（デリバティブ）の基本的な理解を目標とする。また最も基本的かつ多用される二項モデルやブラックショールズモデルの原理や導出過程に対する理解を目標とする。                                                                                                                                                                                                                                                               | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,17 |
| ソフトウェア会計      | 2 | 選択 | 近年の企業での経理事務においては会計ソフトウェアを用いることが一般的となっている。本科目では「弥生会計」を用いて、会計の基礎知識を学修した学生を対象に、これまで学んできた会計理論が、会計ソフトウェアの中で実務教育と結びついていることへの理解を図る。また学修を通じて、経理・財務といった業務に対する興味を喚起し、より深く企業会計を学修するインセンティブを付与することを目的とする。                                                                                                                                                                                 | ◎ | ○ |  |  |  | ○ | 4,9  |
| ビジネスデータ分析A    | 2 | 選択 | 定量的なデータの取り扱い、現在のビジネスにおいては必要不可欠である。本授業ではビジネスでのデファクトスタンダードとなったMicrosoft Excelを用いて、こうした定量データの取り扱い方法や、それを利用した様々な分析方法やグラフの作成方法、あるいは初歩的なVBAの使い方を学び、Excelを自由に操作できるようになることを到達目標とする。Excelを自由に使えることは様々な作業の大幅な効率化に寄与し、インターンや就職活動、卒業論文の作成にも役立つ。内容的には様々なグラフを用いた作図、VLOOKUPをはじめとしたデータの参照方法、ゴールシークやソルバーを用いた最適化、基礎的な統計分析、簡単なモンテカルロシミュレーション等を含む。                                                | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| ビジネスデータ分析B    | 2 | 選択 | 定量的なデータの取り扱い、現在のビジネスにおいては必要不可欠である。本授業ではRについての基礎知識を学ぶ。Rを使って多くの処理ができるような授業内容を構成する。                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ◎ | ○ |  |  |  |   | 4,9  |
| 情報セキュリティB     | 2 | 選択 | インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきた。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解することを目標とする。                                                                                                                                                                                       | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| 情報化戦略とマネジメントB | 2 | 選択 | 本授業では、情報処理技術者試験の中の「基本情報技術者試験」におけるストラテジーの分野に対応する内容について解説をする。したがって、この分野の知識に関して、受講者が「基本情報技術者試験」の合格レベルに達するようにするのが、本授業の到達目標である。具体的な内容としては、企業と法務（企業活動、企業会計、経営科学、法務と標準化）、経営戦略（経営戦略・技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリー）について学ぶ。                                                                                                                                                                    | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| 情報学演習C        | 2 | 選択 | IT(Information Technology；情報技術)とは、たくさんの情報を処理する際に使われる"コンピュータやコンピュータを動かすプログラムの技術"のことである。ITは、私たちの身の回りに深く浸透しており、企業で働く際にもITの知識は必須であると言えます。本授業では、基本情報技術者問題の演習を中心に実施する。                                                                                                                                                                                                              | ○ | ◎ |  |  |  |   | 9    |
| アルゴリズムA       | 2 | 選択 | 情報科学の基礎であるアルゴリズムについて、その基本的な考え方を身に付ける。情報機器を自在に活用するためには、アルゴリズムの理解が不可欠である。特にプログラミングでは必須の知識である。アルゴリズムの知識があれば、ワープロや表計算ソフトウェアにおいてもマクロプログラミングを行うことにより高度な処理を簡単に実現することができる。本講義では、初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めてアルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造（変数・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など）とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索（順次探索法・番兵法・二分探索法など）を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。                                                         | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| アルゴリズムB       | 2 | 選択 | アルゴリズムaでの学修を踏まえて、更に高度なアルゴリズムの理論を学ぶ。実用的レベルの処理のアルゴリズムが構築できることを目標とする。<br>イベントなどのチケットのキャンセル待ちを処理するプログラムや、大量のデータを如何に利用しやすく蓄積するか、またそのように蓄積された巨大データ群から必要な条件に合うデータを発見するにはどうすればよいかなど、将来利用できるテーマを選んで学ぶ。<br>本講義で学ぶ知識を活用すれば、WordやExcelなどのビジネス・アプリケーションソフトを高度に活用することができる。入門レベルでの利用だけでなく、将来、実社会に出てからビジネスで応用できる力を身に付けることを目標とする。<br>アルゴリズムaから順に履修することを勧めるが、アルゴリズムbからでも履修が可能であるように授業内容を配慮している。 | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| モデル化とシミュレーション | 2 | 選択 | コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の巨大化に後押しされ、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測・原因究明などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測・被害予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本講義では、コンピュータシミュレーションの実例を基礎から学ぶ。社会科学と自然科学の分野から理論的枠組みの簡単な問題を幾つか取り上げて、モデル化及びシミュレーションを行い、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実験を知る。                                                                                                                       | ○ | ◎ |  |  |  |   | 4,9  |
| プログラミングA      | 2 | 選択 | プログラミング言語にはさまざまな種類があるが、その中でも特に基本的で重要であるC言語をこの授業では取り扱う。C言語の基礎を理解し、簡単なプログラムの読み取り、書き取りができることを到達目標とする。具体的には、C言語を使って初歩的なプログラム作成練習を行う。C言語は文法がシンプルで覚えやすく、高速で少ないリソースでの動作が可能な言語である。今後もあらゆる分野で使われていくことが予想され、プログラミングの入門としての位置づけと考えられる。具体的な内容は、(1)データの型 (2)算術演算子と論理演算子 (3)条件分岐if文 (4)条件分岐switch-case文 (5)繰り返し処理for文                                                                       | ○ | ◎ |  |  |  |   | 9    |
| プログラミングB      | 2 | 選択 | 到達目標<br>・与えられたプログラムの動作の仕組みを理解し、説明することができる<br>・プログラムのエラーを適切に修正することができる<br>・独自のプログラムを作成することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○ | ◎ |  |  |  |   | 9    |

|                                   |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |   |   |   |   |   |           |
|-----------------------------------|---|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---|---|-----------|
| プログラミングC                          | 2 | 選択 | 到達目標<br>・与えられたプログラムの動作の仕組みを理解し、説明することができる<br>・プログラムのエラーを適切に修正することができる<br>・独自のプログラムを作成することができる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ○ | ◎ |   |   |   |   | 9         |
| データベース                            | 2 | 選択 | テーマは、関係データベースの基礎的な知識を身につけることである。基礎的な知識には、関係データベースの数学的な土台、表の設計と実体関連モデル、SQLの基本構成とSQL文の基本的な書き方が含まれる。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される問題の50%を確実に正解できる能力を身につけることである。情報化社会の進展で、大量の情報が蓄積されるようになり、それらの取り扱いが重要で不可欠なものとなってきている。大量のデータを効率よく扱うためのソフトウェア技術の中核であるデータベース技術を取り上げる。データモデル、関係データベース、関係データベース言語SQL、データベースの制御といったデータベースの基礎的な知識について学び、データベースの応用としていろいろなデータベース、データ資源管理も考察する。                                                                                                                                      | ○ | ◎ |   |   |   |   | 4,9       |
| データマイニング                          | 2 | 選択 | テーマは、関係データベースの基礎的な知識を身につけることである。基礎的な知識には、関係データベースの数学的な土台、表の設計と実体関連モデル、SQLの基本構成とSQL文の基本的な書き方が含まれる。到達目標は、基本情報技術者試験で出題される問題の50%を確実に正解できる能力を身につけることである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ◎ |   |   |   |   | 4,9       |
| ビッグデータ                            | 2 | 選択 | 現在の企業経営で欠かせないビッグデータおよびAI（人工知能）について学ぶ。<br>到達目標<br>・ビッグデータの特徴を適切に説明できる<br>・ビッグデータの分析・解析方法を説明し、実践できる<br>・AI（人工知能）の特徴を説明できる<br>・AIのツールを利用し、判定結果を取得できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ○ | ◎ |   |   |   |   | 9         |
| ICTプロジェクトマネジメント                   | 2 | 選択 | 実際の情報システム開発プロジェクトを事例学習し、プロジェクトマネジメントの重要事項を実践的に学ぶ。<br>到達目標<br>・情報システム開発プロジェクトのマネジメント方法の重要事項を説明できる<br>・マネジメントの実践において留意すべき事項を説明できる<br>・下層の開発プロジェクトにおいて、プロジェクト計画書を作成できる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ○ | ◎ |   |   |   | ○ | 9         |
| 異文化コミュニケーション論                     | 2 | 選択 | 将来、国際的なビジネス分野での活躍を目指す学生を対象にはじめての異文化コミュニケーションの基本知識と主な理論を紹介する。国境を超えてビジネスを展開する企業組織で働くには、多様な文化を理解し、対応能力CQ（Cultural Intelligence）を高めていく必要がある。この講義では、理論だけでなく、様々なビジネス場面での異文化コミュニケーション技法とスキルも紹介し、養っていく。最終的には、国際人としての異文化コミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。本講義の学修は本学部DP3の「多様な価値観について理解し、異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる。」の実現に寄与する。                                                                                                                                                                  | ○ |   | ◎ |   |   |   | 4,5,17    |
| 異文化組織マネジメント                       | 2 | 選択 | 本講義では、将来、日本国内の外資系企業または海外の企業で活躍したいと考えている学生を対象とし、異文化組織マネジメントの基礎理論と現状を紹介する。グローバル社会の中の異文化組織が関わる課題、特に文化の違いから生まれた諸課題を検討する。グローバル戦略のために、文化の違いが組織に影響を与える重要性を認識し、さらに多文化組織でのコミュニケーションの取り方を理解する。問題解決方法のシナジーを把握し、異文化におけるリーダーシップ、動機づけ、意思決定、国際交渉などの理論を十分に理解した上で、皆さん自身の成功につながるグローバル・キャリアの土台をしっかりと構築することをこの講義の目標とする。本講義の学修は本学部DP3の「多様な価値観について理解し、異文化社会に属する人々とコミュニケーションをとりながら、積極的に連携・協働することができる。」の実現に寄与する。                                                                                                        | ○ |   | ◎ | ○ |   |   | 4,5,17    |
| Introduction to Global Management | 2 | 選択 | This is an introductory course in which basic management concepts will be introduced from a cross-cultural perspective. Students will be expected to increase their understanding of human behavior within a global work environment and to develop their skills of good reading habits in English. Students will be also expected to comprehend the importance of possessing a global way of thinking which may help them to prepare for their future careers in a worldwide business setting. |   | ○ | ◎ | ○ |   |   | 17        |
| 経営管理総論                            | 2 | 選択 | 経営学は実際の企業経営や組織運営の現場やそこで働く人間を対象とした応用科学という側面があり、さまざまな理論が展開されている。ときにセオリージャングルと称される経営学の諸理論のなかでも時代を越え、現代の企業経営の現場での実践や考察において有益と思われる原理原則・理論・フレームワークなどを中心にテーマ・トピック別に紹介したいと考える。講義内容の復習と知識や理論の応用力を磨くために、適宜ケーススタディ(事例研究)を取り入れたいと考える。                                                                                                                                                                                                                                                                       | ○ | ○ |   |   |   | ◎ | 8,9,12,17 |
| 人事労務管理論                           | 2 | 選択 | 日本企業の人事労務管理の特徴といわれている終身雇用、年功序列、企業内組合といった「日本的雇用慣行」が、どのようなプロセスを経てわが国に定着し、どのように変化しつつあるのかを、海外の雇用管理の特徴と比較しながら明らかにします。<br>また、適宜、「正社員と非正社員との格差」、「若年離職」、「ブラック企業」、「過労死・過労自殺」、「リストラ」等現実の労働問題に関するトピックを取り上げ、何故こうした問題が発生するのかについて、「日本的雇用慣行」との関係から解説を加えていきます。"                                                                                                                                                                                                                                                 | ◎ | ○ |   | ○ | ○ |   | 8         |
| 企業倫理論                             | 2 | 選択 | 企業は、とすれば経済性や効率性のみで走り勝ちであるが、最近では、社会性や人間性という価値観を併せ持った企業でないと社会に受け入れられないという状況が強まってきているといえる。企業といえども社会的存在である以上、地球環境保全、社会貢献、人間尊重といった面での責任を共有しなければならない。本講義は企業倫理とは何かを皮切りに、企業不祥事発生リスクの軽減や、企業が継続的な発展を寄与するために関わる重要なテーマである①コンプライアンス体制の構築、②コーポレートガバナンスをめぐる議論とその制度設計について、③ステークホルダーと企業の持続的な発展や、企業のブランド価値等を中心に学習していく予定。                                                                                                                                                                                          | ◎ | ○ |   | ○ |   |   | 5, 8, 10  |

|           |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |   |   |  |   |           |
|-----------|---|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--|---|-----------|
| 事業と継承     | 2 | 選択 | 事業承継は、企業経営を現在の経営者から次の経営者に引き継ぐことによって事業の存続と発展を図ることである。一般的には、株式所有の移転と経営権の交代によって実現される。事業承継は事業規模や事業の内容に関わらず、経営者にとって一つの社会的責任と言えるかもしれない。ゴーイングコンサーン（永続的存在）として企業が存続するかどうかには事業承継は直結しているからである。<br>受講生のなかには、家業を継ぐ可能性のある後継者候補のものもいるかもしれない。また、企業の普遍的なテーマである事業承継に従業員の立場として遭遇することになるものもいるかもしれない。事業承継の当事者（後継者）としての立場と同時に、従業員の立場からもこの事業承継や経営の世代交代に関わるさまざまな課題について理解と考察を深めることを目標とする。                                        | ○ | ○ |   |  | ◎ | 8,9,12    |
| 金融論       | 2 | 選択 | 金融とは、家計、企業及び政府等の経済主体間で行われる資金(貨幣)の融通活動を意味する。近年の金融の世界は、マイナス金利、世界金融危機、証券化、ビットコイン、インターネットバンキング・スマホバンキングへの対応、生体認証、FinTechなどの新技術、さまざまな異業種からの銀行参入あるいはキャッシュレス化など、話題に事欠かない。金融論は、現在トレンドな学問となっている。授業では配布するプリントに基づき金融機関、金融市場、金融政策、最近の金融をめぐる潮流および課題について論じていく。毎授業終了後には授業に関する質問や相談などについて対応する。                                                                                                                          | ◎ | ○ |   |  | ○ | 8, 10     |
| 起業マネジメント論 | 2 | 選択 | 本講義では、(1)個人の意志として起業をはかり事業活動を展開していくための基礎づくり、(2)就職後における環境適応能力を高めるための企業研究の2つの観点から構成される。経営者視点から、経営環境に適応した経営計画づくり、事業継続と発展への取組みという一連の事業運営について概観し、分析・考察ができることを目標とする。また、事例研究では業種別の起業計画に関する評価を行うことによって、事業計画書づくりにおける応用・実践力を高めていくことを目標とする。                                                                                                                                                                         | ○ | ○ |   |  | ◎ | 8, 9      |
| 国際経営論     | 4 | 選択 | 経済および経営の国際化の進展にともない、主にアメリカで発展してきたのが国際経営論という専門研究分野である。国内経営（Domestic Management）との対比、異同を出発点として、現在では、おもに多国籍企業によるグローバルな経営活動の諸側面を研究対象としている。国際経営論の研究分野は、企業をとりまく環境も当然ながら包括され、国際政治や国際法、国際経済動向も重要な研究対象の一部となる。本国際経営論では、その史的展開を学習した上で、現代の企業が抱える国際経営問題を考察していくこととする。                                                                                                                                                 | ◎ | ○ | ○ |  | ○ | 8,9,12,17 |
| 中小企業論     | 2 | 選択 | 日本の中小企業・小規模事業者数は、357.8万者とされ、大企業を含めた全規模358.9万者の実に99.7%を占める。またこれら中小企業・小規模事業者の従業員数は約7割を占める。本講義ではこの中小企業をめぐる経営環境や動向などを「中小企業白書」を中心にファクトベースで理解することから始める。同時に「白書」には中小企業の経営課題や先進事例も豊富に記載されており、これらの具体的な分析・考察を通じて、中小企業の役割と経営活動の特徴について実践的に理解を深めていきたい。                                                                                                                                                                | ◎ | ○ |   |  | ○ | 8, 9      |
| 地域振興論     | 2 | 選択 | 我が国の多くの地方は都市への人口の流出や高齢化による人口減少や経済の空洞化など、様々な課題を抱えている。一方、地方、特に国土の7割を占める中山間地域は、自然が豊かで、風土に根差した多様な文化が育まれているなど、都会にはない魅力に満ちており、さらには森林資源や海洋資源に代表される、再生可能な資源が豊富である。今求められている「持続可能な社会」を日本が実現するためには、輸入依存から脱却し、こうした国内の再生資源を活用することが重要であると考えられる。加えて、地方の豊かな自然が、人々の防災やアメニティーに大きく貢献する生態系機能を持つことが「グリーンインフラ」として大きく注目を集めている。本講義では、地域社会が有する再評価すべき資源について理解を深める。そのうえで、地域社会が活性化され、さらにそれが日本の活力となるためには何が課題となるのか、また今後のあり方について考えていく。 | ◎ | ○ |   |  | ○ | 8,11      |
| 国際経済学     | 2 | 選択 | 本講義では前半を国際マクロ経済、後半を貿易論の理論的説明を行う。まず国際経済学を学上で重要なデータの見方や大数観測の方法を身につける。そして、国際収支の見方を学び、日本と世界の経済構造の変化を読み取る力を身につける。国際収支を通して世界経済を概観し、経常収支の不均衡問題や貿易構造の変化について考察する。さらに、為替レートの基礎知識も学ぶ。後半は貿易論の基礎的理論を学びながら、現在の国際経済体制が構築された歴史的経緯を理解し、近年の国際経済における諸問題を通して理論的解説と現実の政策について理解を深める。(254)                                                                                                                                     | ◎ | ○ | ○ |  | ○ | 1,8,10,17 |
| ミクロ経済学    | 2 | 選択 | 本講座ではミクロ経済学の基礎的な理論を習得することを目的としている。ミクロ経済学は、現実の経済現象を数学モデルを用いて解析・分析することに主眼が置かれているため、どうしても数学の知識が必要とされてくる。そのうえで経済学のモデルを用いて人々の行動、企業行動、市場の動きを考察していく。交換論、需要分析、供給分析、独占・寡占といった不完全競争理論にまで踏み込んで学習を行う予定である。また以上のようなオソドックスな理論に加え、最近の流行りである行動経済学についても触れるつもりである。到達目標としては、一般的な公務員試験に出題される試験問題に対し70%は正答できるようにしたいと考えている。                                                                                                   | ◎ |   |   |  | ○ | 1, 8, 10  |
| マクロ経済学    | 2 | 選択 | マクロ経済学は国家単位で、あるいは国際的な規模で生じる経済現象を理論的に説明するものであり、その際には数学モデルの解析が不可欠となる。近年のグローバル化の進展により一国の経済政策としてのケインズ的なマクロ経済政策はあまり効果を持たなくなりつつある。しかし、本講座では基礎的な理解としてまずケインズ的なマクロ経済政策を学習し、その後で、グローバル化下における経済政策の有効性や、日本やアメリカなどそれぞれの事情に応じた経済政策について講義を進めていく。またマクロ経済モデルを学習するにあたっては数式モデルを用いた計算が不可欠である。それゆえ本講座ではその練習として公務員試験の問題を取り上げている。到達目標としては一般的な公務員試験の問題を70%以上正答できるようにすることを目標とする。                                                 | ◎ |   |   |  | ○ | 1, 8, 10  |
| 財政学       | 2 | 選択 | 本講座は財政学の基本的理解を目指すものである。財政学は経済学を基本としているが、政治学、行政学、法律学、など様々な諸学問と関わる総合的な性格を有するが学問分野である。本講座では財政の歴史、租税制度、公債論、社会保障制度、公共財供給、諸々の経済政策や社会政策について講義を行っていく。財政学である以上、当然、政府の活動が講義の中心になるが、より学際的な講義となるように考えている。本講座を通じて、現実の諸問題について幅広い分野から学問的考察を行えるようになってもらいたい。到達目標としては授業内容の80%以上の理解を期待している。                                                                                                                                | ◎ | ○ |   |  | ○ | 1, 8, 10  |

|          |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |   |  |  |  |   |                   |
|----------|---|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|--|---|-------------------|
| 民法A      | 2 | 選択 | 民法は民法学の基本法として、我々の日常生活に幅広く、且つ深く関わっていることが多言を要しないが、我々自身が日常生活の中では意外とその存在に気づかないでいる。本講義においては、民法典の総則編・物権編を学習していくとする。また、履修者が民法に対する理解を助ける為、できるだけ多くの事例を紹介しながら学習していき、学習内容が広範囲にわたるため、講義の進行が民法典総則・物権法の重要な内容を中心、テーマ別についてメリハリをつけて学習していく予定。                                                                                                                                                  | ◎ |  |  |  | ○ | 16                |
| 民法B      | 2 | 選択 | 民法は市民法として、我々の日常生活に幅広く、且つ深く関わっていることが多言を要しないが、我々自身が日常生活の中では意外とその存在に気づかないでいる。本講義は受講者諸君に対し、民法債権編及び家族法の基礎知識の習得を講義目標としている。講義を受講する諸君に対し、受講内容をより理解してもらうため、次回講義範囲の予習を課する。その他、判例関係のプリント随時配布する予定。また、毎回講義の最初に前回内容を復習する意味で、無作為質問や小テストの実施が予定されているため、復習も求められる。                                                                                                                              | ◎ |  |  |  | ○ | 16                |
| 商法       | 2 | 選択 | 本講義は現行商法における商法総則・商行為法の部分や企業資金決済に関わる重要な法規である手形・小切手法、さらには社会人に求める基本のビジネスに関わる幾つかの重要法規を学習していく予定である。講義は解説が中心となるが、聴講生理解を向上させるため、できるだけ多くの事例を紹介しながら進めていく。また、ビジネス法務の部分については資料配布して学習していくが、その他の部分は指定テキストに沿って学習する。なお、受講者に対して予習を課すると共に、毎回講義の最初に前回内容を復習する意味で、無作為質問又は小テストの実施が予定されているため、復習も求められる。                                                                                             | ◎ |  |  |  | ○ | 16                |
| 国際法      | 2 | 選択 | 「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。国連を中心として国際社会の緊密化が進む現在、国際法が関係する範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱いたい。                                                                                                                           | ◎ |  |  |  | ○ | 16                |
| 環境政策論    | 2 | 選択 | 環境問題に対する政策について、公共政策として、国際的、国内的な両面から、考察する。特に、政策決定過程、その主体となる諸組織、法制化された政策の行政含めた現実的過程の実態並びに効用を理解し、環境政策を形骸化された行政組織論以上のものとして、問題の本質をとらえる。また、政策決定に関わる諸主体の具体事例については、国内的には、日本を中心に、社会史的、制度史的な理解を進める。環境政策を「環境」に関する行政組織の環境基準、環境保全、環境影響評価等の手法のみならず、市民運動はじめ政策決定、運用、実施に関わる全ての関係者がなす過程の総体まで広げて、問題の構図をとらえ、システムが生み出す問題としての環境問題に対する実効的な解決の道筋が披けることを、狭義の現代日本の環境行政に留まらず、広く世界史的視野で歴史を含め政策の過程を考えていく。 | ◎ |  |  |  | ○ | 6,13,14,15        |
| 地域生態系保全論 | 2 | 選択 | 地域生態系は、地域の地誌的な環境とそこに生息する生物の総体として成り立つ生態系である。その地域に住む人々の暮らしは地域生態系の総体である自然環境によって支えられている。特に近年、地域の自然環境が住民のアメニティーや教育、また防災などを支えるインフラとしての機能を持つことが再評価され、グリーンインフラという言葉が浸透してくるなど、地域の自然環境や生物多様性の重要性が認識されてきている。しかしながら、特に地方の地域生態系は開発や管理の放棄などにより多くの生態系が衰退しているのが現状である。本講義では、保全生態学の基礎を学んだ上で、地域の自然環境における現状と課題を整理し、生態学的な観点からその保全と活用について考える。                                                      | ◎ |  |  |  | ○ | 4,6,9,11,13,14,15 |
| 体づくり運動   | 1 | 選択 | 本授業は主に実技形式で実施する。「体づくり運動」の意義を十分に理解した上で、「体ほくしの運動」については、用具を用いない運動、およびボールなどの用具を用いて行う運動に分けて学ぶ。また、「体の動きを高める運動」及び「実生活に生かす運動の計画」については、持久力、筋力、柔軟性および巧緻性が向上する運動を行い、それを実生活にどのように生かすかについても学ぶ。その後、それぞれの運動についての指導法を学ぶ。出来る限り、グループ毎に模擬授業を繰り返し、中学校、高等学校での「体づくり運動」の指導法を身につけていく。授業を履修するにあたり、ホイッスルを各自で準備すること。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                  | ◎ |  |  |  | ○ | 3,4               |
| 器械運動     | 1 | 選択 | 器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や補助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることを本授業のねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。<br>本授業の課題となる技は、マット運動：「伸膝前転」「前方倒立回転跳び」、とび箱運動：「屈身とび」「前方倒立回転跳び」、鉄棒運動：「け上がり」「後方支持回転」「前方支持回転」「振りとび下り」である。<br>本授業では、学生同士による知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、授業を通じてコミュニケーション能力を養い、幅広い知識と教養の育成を目指す。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                       | ◎ |  |  |  | ○ | 3,4               |
| 陸上競技     | 1 | 選択 | 運動の基本である走る、跳ぶ、投げることについて基礎を身につけ、所定の技能到達目標を達成する。また、集団行動を通して、視野を広く持ち同調性を身につけ、到達するまでの取組も指導法として考慮する。器具の取り扱いや安全管理について修得し、リスクマネジメントについても学び身につける。運動の基本である走る、跳ぶ、投げるを記録と結びつけて理解させる。陸上競技の歴史にもふれ、競技方法やトレーニング方法、ルール等での幅広い知識を修得させる。また、器具を使用して行う種目については、安全管理方法も身につけ、そして集団行動を取り入れるなかで、連帯感・同調性についても学ぶ。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                      | ◎ |  |  |  | ○ | 16                |
| 水泳       | 1 | 選択 | 到達目標は、水泳における4種目（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の泳法を習得し、100m個人メドレーが完泳できるようになることである。また、水泳・水中運動における基礎的な理論を理解し、水泳の4種目および水中運動（アクアビクス、水中レジスタンス運動）の指導ができるようになることである。この授業では、水泳、水中運動、および救助法について学ぶ。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                                                                                                                              | ◎ |  |  |  | ○ | 3                 |

|               |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |   |  |  |   |  |       |
|---------------|---|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|---|--|-------|
| サッカー          | 1 | 選択 | 本授業では、サッカーの競技特性を理解しながら、サッカーを通じて豊かな生涯スポーツを継続する資質や能力を育む。また、到達すべき競技レベルに関しては、中学生・高校生を対象としたサッカー実技指導において必要と考えられる基本技術および技術を習得する。さらに習得した基本技術および技術をもとにサッカーの指導方法について養うことを目的とする。本授業において様々な技術・戦術トレーニングやコミュニケーショントレーニングを通じて、教育現場における中学校・高等学校の体育授業（サッカー）において、適切な授業構成に基づきながら生徒の能力に応じた指導実践が行えるようになる。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                        | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| バスケットボール      | 1 | 選択 | 本授業の到達目標は、バスケットボールの①基本的な技術、②ルールや競技特性等の基本的な知識、および③指導方法を、体育の実技指導を行うために十分な水準まで習得することである。授業では、バスケットボールの基本的な技術を習得し、ルールや競技特性に理解を深めつつ、バスケットボールの楽しさや難しさを体験していく。さらに自身がバスケットボールの教授者となることを想定し、バスケットボールにまつわる基本的な技術や知識の習得過程で得た知見や自らの成功・躓きの経験を授業づくりの糧にして指導計画を作成し、指導実践を行っていく。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                              | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| バレーボール        | 1 | 選択 | 本授業では、①バレーボールの特性やルールを正しく理解するとともに、学校教育におけるバレーボールの必要性や意義について説明できるようにすること、②個人技能の習熟を目指すことはもちろんのこと、作戦を活かした攻防を展開してゲームができる力を身につけること、③バレーボールの歴史、審判方法、ゲーム運営方法を学ぶとともに、中学校・高等学校での体育授業を行うための指導方法を身につけることを目標としている。また、授業を通して、健康・安全に留意して練習やゲームができるよう、練習場などの安全の確保の仕方についても学んでいく。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                             | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| ソフトボール        | 1 | 選択 | ソフトボールの基本技術を学びながら、対象者やグラウンドなど状況に応じて、最も適したベースボール型の球技をカリキュラム・マネジメントできるようにする。指導法を学び、グループやチームで相互にソフトボール指導を行う。また、野球やソフトボールの歴史や現状から、ベースボール型の球技が日本において非常に馴染みがあることを学ぶ。中学校や高等学校の種目としてベースボール型の球技を実施する際の、指導法、安全管理、ルール、戦術などを学ぶ。本授業の目標は、自身がソフトボールの基本技術を習得し、安全に留意しながらソフトボール指導ができるようになることである。また、生涯スポーツとしての役割が非常に高いベースボール型の球技への理解を深めることも目標とする。 ※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者 | ◎ |  |  | ○ |  | 4     |
| 柔道            | 1 | 選択 | 日本で生まれた柔道は、現在、世界中で愛されるスポーツへと発展した。その柔道をスポーツ・武道・教育の側面から多角的に学び、教育の幅を広げることを本授業の目的とする。教育では、柔道の歴史や理念。武道では、礼法と受身。スポーツでは、立技・寝技の習得をそれぞれ行い、特に武道（礼法及び受身）とスポーツ（技の習得）を中心として行う。最終的には、試合形式での乱取りができる範囲までの習得を目指す。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                                                                                            | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| ダンス           | 1 | 選択 | ダンスは、リズム感や身体操作能力を向上させるために有効である。また、感情を込めて踊る、集団で踊ることにより、仲間と交流を持つことができる。本授業では、学校体育で行われるダンス（創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス）やエアロビクスダンスの知識、技能、及び指導法について学ぶ。また、様々な課題に応じたグループでのダンスの創作・発表・鑑賞を通じて、協調性や課題発見・解決力も身につける。なお、本授業は保健体育科教員免許、及び健康運動実践指導者資格取得希望者を対象とする。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                                             | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| スキー           | 1 | 選択 | 講義でスキーについて学び、集中講義で3泊4日のスキー実習を行う。スキー技術に応じてグループ編成を行い、実技指導を進める。初心者にはスキーに慣れることから始め、制動、ブルークローゲンおよびブルークターンを習得し、リフトを使い様々な斜面をコントロールしながら安全に滑れるようにする。経験者は、それぞれのレベルに応じてスキーおよび身体操作能力を高め、安全確実な技術を身につける。斜面や雪面状況に応じて、「ずれる」滑りから「ずらす」滑り、「ずらす」滑りから「切れる」滑り、すなわち「カービングターン」を目指す。また、事前に講義を行い、スキーの安全について学ぶ。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                        | ◎ |  |  | ○ |  | 4, 15 |
| 運動学(運動方法学を含む) | 2 | 選択 | 運動学では、体育授業やスポーツ指導場面などの実践現場の問題を取り上げる。このとき、「どのようにすればできるようになるか」という学習者の問題と、「どのようにすればできるようにさせられるか」という指導者の問題がある。このような問題について、運動を身体で理解し、考えることが重要になる。運動を身体で理解する、そして学習者に教えることができるという能力は、体育教師やスポーツ指導者にとって必要な能力である。運動学では、そのような運動に対する考えかたを学んでいく。講義の際には、できる限り具体的な例を通して理解し、自らの運動経験をもとに考え、理解をより深めていく。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                       | ◎ |  |  | ○ |  | 3, 4  |
| 体育史           | 2 | 選択 | 知育、徳育、体育は教育の三本柱である。その中で体育は、スポーツを通して発展した文化的なものであり、深い歴史がある。この発展の経緯を知り、「体育とスポーツ」をキーワードに日本と他国の相違点を把握して学び教育的効果に結び付ける。体育について、スポーツの起源と発展を時代の背景を通して欧米や日本を比較し、思想の違いや、どのように実践され応用されたかを知る。また現代社会の問題である健康との関係やスポーツ文化について、意義や役割を再認識し、心身の健康とのかかわり方が深く教育的効果も体育史には重要視されている。                                                                                                   | ◎ |  |  | ○ |  | 3     |
| スポーツ心理学       | 2 | 選択 | 運動・スポーツは、身体的な効果だけでなく、気分、自己概念、パーソナリティなど心理的にも効果を与える。また、運動・スポーツを実践・継続させるためには、動機づけの方法や行動変容理論を理解することが重要である。さらに、スポーツ競技者・指導者にとっては、競技場面での心の状態を適切にコントロールすることが好成績をあげる条件であり、メンタルマネジメントの技法が有効となる。この授業では、運動・スポーツの実践者・競技者・指導者の立場からスポーツと心の問題を学んでいく。                                                                                                                          | ◎ |  |  | ○ |  | 3     |

|                |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |  |  |  |  |   |         |
|----------------|---|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|--|--|---|---------|
| 運動生理学          | 2 | 選択 | 一過性の運動によって生じる身体の生理的な応答、および、継続的な運動による身体の機能や形態にどのような変化が生じるのかについて、すなわち運動時の身体のはたらきや、トレーニングによる身体の構造やはたらきの変化を学ぶ。主に筋系、神経系、呼吸器系および循環器系から、そのメカニズムを学ぶ。運動時の身体のはたらきを知るためのパフォーマンステストなどの知識やテクニックについて学ぶ。また、生理学的知識を基礎とした健康づくりのための運動プログラムの基本的な考え方についても習得する。                                                                                                                               | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3,4     |
| 解剖生理学          | 2 | 選択 | 正常な人体の構造と機能について理解を深めることによって、心身の健康や身体の運動についてより深く考察することができるようになる。本授業では、保健体育教員やスポーツ指導者に必須である「人体の構造と機能」の知識を解剖学と生理学の学問領域から学ぶ。これらを学ぶことによって、健康やスポーツをより科学的・論理的に説明できる基盤を獲得することができ、説得力のある指導を展開できることにつながる。具体的には、人体を構成する各器官系（神経・感覚器系、内分泌系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系）の構造と機能について学ぶとともに、運動器（骨格と筋）の構造とその動きの特徴について学び、専門用語を用いて説明できるようにする。                                                        | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3       |
| スポーツ栄養学        | 2 | 選択 | スポーツ（身体活動）は、健康の維持増進に大きく寄与することが明らかとなっている。また、スポーツの競技力向上や健康増進効果に対して、食事や栄養素が大きく影響することも知られている。そのため、スポーツの指導者に対しても食事や栄養に関する一定の知識が求められるようになってきている。そのため、本講義では指導者として必須の栄養学の知識を学び、受講後には、科学的根拠に基づいて食事や栄養に関する知識や情報を踏まえて分かりやすく伝えたり、スポーツや健康づくりの現場で活用したりするための基礎能力を養う。                                                                                                                    | ◎ |  |  |  |  | ○ | 2,3     |
| 救急処置（実習を含む）    | 2 | 選択 | 救急処置は、突然の事故や病気から自分自身および大切な人を守るための重要な知識・技術である。生涯にわたるスポーツ・運動を楽しむためには救急法の知識・技術が不可欠である。また、スポーツ・運動の指導者は、スポーツ事故のリスクマネジメントを行い、事故が生じたときには直ちに救急処置を行わなければならない。本授業では、主に（1）心肺蘇生とAED、（2）内科的な急性・慢性障害への対応、（3）整形外科的障害と外科的救急処置などについての理論と実践を学ぶ。特に心肺蘇生とAEDの一次救命処置は、重要な評価項目となる。心肺蘇生とAEDの実技が正しくできることは、この授業の単位を修得するための必須課題である。                                                                 | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3       |
| スポーツ経営学        | 2 | 選択 | 体育・スポーツにおいて人の管理、施設・用具の管理、財務管理など、経営学的なものの見方・考え方が不可欠である。本授業では、スポーツ経営に関連する法律や制度を学ぶとともに、スポーツ行政、スポーツ用品産業、企業とスポーツ、スポーツ施設（民間・公共スポーツ施設）の運営、スポーツスポンサーシップ、スポーツイベントの開催等を、それを取り巻く社会状況を鑑みながら、経営学的な観点から捉えて、スポーツに対する理解を深めていくことを目的とする。                                                                                                                                                   | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3,9,16  |
| スポーツビジネス論      | 2 | 選択 | スポーツ産業やスポーツビジネス全般についていくつかに分類して講義をする。各スポーツビジネス分野の現状や課題について学ぶ。また、グループワーク・グループ発表も行う。スポーツビジネスに関する課題を議論・発表して、さらに理解を深める。なお、本授業では、①主要なスポーツ産業やスポーツビジネスに関する現状、特徴、および今後の課題について説明できる、②現在のスポーツ産業やスポーツビジネスの課題についてグループで議論しながら、自分自身の考え（解決法）をまとめ、論理的に説明することができる、ことを目標とする。                                                                                                                | ◎ |  |  |  |  | ○ | 8,12    |
| スポーツアロマセラピー    | 2 | 選択 | アロマセラピー（芳香療法）は植物から抽出された精油を用いる自然・植物療法である。個人的なリラクゼーションだけでなく、近年ではスポーツ分野においても自身やチームのパフォーマンスを高めるために香りを日々の心身のケアに取り入れる事例が増えてきている。本講義では実際に精油を用いて、痛みの軽減、ストレスケア、睡眠の質の改善、セルフアロマトリートメントなど、健康維持やスポーツにおいて役立つケアについて理論的および実践的に学ぶ。またスポーツ分野における香りをを用いたビジネス事例を学び、香りの持つ可能性について考える。                                                                                                           | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3,12,15 |
| 体力トレーニング実習     | 1 | 選択 | 生涯にわたって健康な生活を営むためには、柔軟性・筋力・全身持久力などの体力要素が特に重要になる。健康づくり運動の指導者は、これらの体力要素を安全かつ効果的に指導できることが求められる。本授業では、柔軟性を高めるためのストレッチング、筋力を高めるためのレジスタンストレーニング、さらに全身持久力を高めるためのエアロビクトレーニングについての理論と方法を学ぶ。ストレッチングは、静的ストレッチングと動的ストレッチングの理論と方法について学ぶ。また、レジスタンストレーニングは、フリーウエイトとマシーントレーニングの理論と方法について学ぶ。さらに全身持久力トレーニングは、ウォーキングとジョギングの理論と方法について学ぶ。なお、本授業は、健康運動実践指導者受験希望者および保健体育教員免許取得希望者を対象として授業をすすめる。 | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3       |
| スポーツ医学         | 2 | 選択 | スポーツ・健康づくりの指導者として必要な身体運動にとって重要な骨や筋などの名称および働きなど理解することをねらいとする。さらに各関節運動の名称およびいづれの筋が動員しているのかについて学ぶ。固有受容器のはたらきから反射のメカニズム、さらには実際の運動を事例に学ぶ。整形外科的および内科的なスポーツ障害の予防法についても学ぶ。また、リハビリテーション医学の基礎を学び、障害者または障がい者スポーツへの理解を深める。一方、ドーピングの基礎知識についても学ぶ。本授業はオムニバス方式で講義形式にて行われる。                                                                                                               | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3       |
| 健康運動指導法（実習を含む） | 2 | 選択 | 本授業は、各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実際と評価について学び、それぞれの測定結果を身体活動・運動やトレーニングに応用できるように授業を実施する。また、生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性、年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムを立案できるように授業を行う。授業はまず講義形式で行い、関連する知識を修得する。その上で、習得した知識に関わるスキルを身につけるために実習形式で授業を行う。実習後に課題レポートを作成することで理解を深める。運動プログラムの作成に関しては、ケーススタディーに基づき、討論も行う。なお、本授業は「健康運動実践指導者」資格の受験を希望する学生を前提に授業を展開する。                         | ◎ |  |  |  |  | ○ | 3       |

|                 |                |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |  |  |  |   |   |              |
|-----------------|----------------|---|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|--|---|---|--------------|
|                 | 衛生・公衆衛生学       | 2 | 選択 | 公衆衛生学は、人間集団の健康増進を目的とした実践の学問である。臨床医学と公衆衛生学は、いずれも人の健康を目指すものだが、臨床医学が患者という個人を対象に予防や治療を考えるのに対し、公衆衛生学は地域住民や学校の生徒など人間集団を対象として健康状態の向上を目指すという特徴がある。この授業では、疫学、感染症と生活習慣病の予防、母子保健、学校保健、精神保健など、人間集団の健康増進と疾病予防のための方策を学び、公衆衛生の現状を把握し向上を図るための基本的知識、技能、態度を修得することが目的である。                                                                                                                                                 | ◎ |  |  |  |   | ○ | 3            |
|                 | 学校保健学          | 2 | 選択 | 本授業では、発育発達期にある児童・生徒の健康の保持増進を図る事を目的とする学校保健について、保健管理、保健教育及び組織活動について理解を深め、学校保健を積極的に実践する能力を養う。また、授業を通して、児童生徒の健康の保持増進を図るため、学校保健計画、心身の発育・発達、児童生徒に多い健康問題、環境衛生、安全管理及び教職員の役割、組織活動について理解を深める。内容により実習、演習を通して理解を深めていく。                                                                                                                                                                                             | ◎ |  |  |  |   | ○ | 3, 4         |
|                 | スポーツと地域振興      | 2 | 選択 | 地域振興の施策として、スポーツイベントやレジャー企画の運営が注目されている。国のスポーツ振興法およびスポーツ振興基本計画、スポーツ基本法およびスポーツ基本計画に基づいた施策について学び、さらに地方自治体や地域におけるスポーツ振興方策と地域スポーツクラブの役割・機能について理解を深めることを本授業の目的とする。授業では、スポーツクラブやスポーツイベントの現状を通して、地域とスポーツのかかわりや考えとともに、広く社会の中のスポーツの役割について考える。また、スポーツを通じて地域経済や社会の振興を図ろうとする自治体の事例を学び、今後の地域振興策などを考察する。                                                                                                               | ◎ |  |  |  |   | ○ | 3, 4, 11, 17 |
|                 | 地域スポーツマネジメント論Ⅰ | 2 | 選択 | スポーツ基本法施行、スポーツ庁の創設と日本のスポーツ界を取り巻く環境は大きく変化の兆しを示している。地域スポーツのマネジメントに関しては、地方公共団体のスポーツ振興策のあり方、総合型地域スポーツクラブに対する期待、部活運営に象徴される学校体育の課題等多くの問題を抱えており、地域スポーツマネジメントの在り方に社会の関心が寄せられている。本授業では「地域スポーツ」をキーワードとして現状の把握、今後の課題について学ぶ。特に「総合型地域スポーツクラブ」にフォーカスし、クラブ運営について理解を深め、併せてクラブ運営に関わる人材に求められる知識、情報、能力を得ることをねらいとする。授業形態は講義形式を中心にパワーポイントを利用し授業を進めていく。特に総合型地域スポーツクラブに関しては、「公認アシスタントマネージャー養成テキスト」（公財）日本スポーツ協会編の内容を中心に講義を進める。 | ◎ |  |  |  |   | ○ | 3, 4, 11, 17 |
|                 | 地域スポーツマネジメント論Ⅱ | 1 | 選択 | スポーツ基本法施行、スポーツ庁の創設と日本のスポーツ界を取り巻く環境は大きく変化の兆しを示している。地域スポーツのマネジメントに関しては、地方公共団体のスポーツ振興策のあり方、総合型地域スポーツクラブに対する期待、部活運営に象徴される学校体育の課題等多くの問題を抱えており、地域スポーツマネジメントの在り方に社会の関心が寄せられている。本授業では「地域スポーツ」をキーワードとして現状の把握、今後の課題について学ぶ。特に「総合型地域スポーツクラブ」にフォーカスし、クラブ運営について理解を深め、併せてクラブ運営に関わる人材に求められる知識、情報、能力を得ることをねらいとする。授業形態は、総合型地域スポーツクラブ運営の活動体験として、演習形式（ビジネスプラン作成、ポスター作製等）の授業を実施する。                                          | ◎ |  |  |  |   | ○ | 3, 4, 11, 17 |
| 専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践） | ゼミナールA         | 2 | 必修 | 演習形式で授業を行う。各教員のテーマ（予定：企業経営と会計・財務、国際経営、ビジネス法務、戦略と組織の研究、情報通信技術、公務員試験対策、パーソナルファイナンス研究、公立学校教員採用試験対策研究、スポーツ・健康がもたらす社会貢献、スポーツにおけるリーダーシップ、生涯スポーツマネジメント、スポーツ健康科学研究、スポーツフィットネス実践）に基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。                                                                                                                                                      |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4,17         |
|                 | ゼミナールB         | 2 | 必修 | 演習形式で授業を行う。各教員のテーマ（予定：企業経営と会計・財務、国際経営、ビジネス法務、戦略と組織の研究、情報通信技術、公務員試験対策、パーソナルファイナンス研究、公立学校教員採用試験対策研究、スポーツ・健康がもたらす社会貢献、スポーツにおけるリーダーシップ、生涯スポーツマネジメント、スポーツ健康科学研究、スポーツフィットネス実践）に基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。                                                                                                                                                      |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4,17         |
|                 | ゼミナールC         | 2 | 必修 | 演習形式で授業を行う。各教員のテーマ（予定：企業経営と会計・財務、国際経営、ビジネス法務、戦略と組織の研究、情報通信技術、公務員試験対策、パーソナルファイナンス研究、公立学校教員採用試験対策研究、スポーツ・健康がもたらす社会貢献、スポーツにおけるリーダーシップ、生涯スポーツマネジメント、スポーツ健康科学研究、スポーツフィットネス実践）に基づき、卒業研究を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。                                                                                                                                                          |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4,17         |
|                 | ゼミナールD         | 2 | 選択 | 演習形式で授業を行う。各教員のテーマ（予定：企業経営と会計・財務、国際経営、ビジネス法務、戦略と組織の研究、情報通信技術、公務員試験対策、パーソナルファイナンス研究、公立学校教員採用試験対策研究、スポーツ・健康がもたらす社会貢献、スポーツにおけるリーダーシップ、生涯スポーツマネジメント、スポーツ健康科学研究、スポーツフィットネス実践）に基づき、卒業研究を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。                                                                                                                                                          |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4,17         |
|                 | ゼミナールE         | 2 | 選択 | 演習形式で授業を行う。各教員のテーマ（予定：企業経営と会計・財務、国際経営、ビジネス法務、戦略と組織の研究、情報通信技術、公務員試験対策、パーソナルファイナンス研究、公立学校教員採用試験対策研究、スポーツ・健康がもたらす社会貢献、スポーツにおけるリーダーシップ、生涯スポーツマネジメント、スポーツ健康科学研究、スポーツフィットネス実践）に基づき、学生の発表や討論を中心に行い、これまでに獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協同的に諸課題に取り組む能力を高めることを目標とする。                                                                                                                                                      |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4,17         |



|            |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |  |  |   |   |          |
|------------|---|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|---|---|----------|
| プロジェクト研究A  | 2 | 選択 | <p>テーマ：航空ビジネス研究</p> <p>業界研究を通して航空産業が人、モノの輸送を担うことにより、世界のGNP、雇用、国際交流人口の拡大に貢献していることを学び、航空産業の将来を見通す基礎力を養う。また、新しい航空ビジネスモデルの事例をととして企業人に必要な考える力を身につける本講義では、航空ビジネスの基本的ビジネスの事例をととして国際交流人口の拡大、顧客満足によるリピーターの確保、自由競争時代の中での経営戦略などわかりやすく解説し、航空ビジネスがもたらす様々な社会的・経済的効果の理解を深める。本講義では客観的なスタンスでの説明に努めるとともに、一般社会動向や社会組織等にも言及しながら進めるので航空産業への関心の有無に係わらず、多くの皆さんの履修を歓迎する。</p>                              |   |  |  | ◎ | ○ | 9        |
| プロジェクト研究B  | 2 | 選択 | <p>健康体力づくりの指導者としての知識、技能、および指導力を習得するための授業を展開する。＜技能・指導＞レジスタンス運動およびエアロビックダンスの実技指導を中心に行う。＜知識＞健康づくり施策、運動生理学、機能解剖とバイオメカニクス、栄養摂取と運動、体力測定と評価、健康づくりと運動プログラム、運動指導の心理的要因、健康づくり運動の実際、運動障害と予防・救急処置に関する知識を身につけるため、演習とその解説を中心に行う。＜履修対象者＞本授業は健康体力づくりの指導者レベルを目標としているので、基本的な知識・技能を有していることを前提に授業を行う。そのため、「健康運動実践指導者」の受験条件を満たしている学生を対象とする。その具体的な受験条件については、学生便覧の「健康・スポーツ関連資格」欄に記載されているので必ず確認すること。</p>  |   |  |  | ◎ | ○ | 9        |
| 教職論        | 2 | 自由 | <p>今後の教職科目の履修に際して、学校・教員に関する基礎的事項について理解しておくために、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観する。この授業では、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（服務・研修・身分保障など）を負っているのか」、等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。あわせて、教科・科目に関する知識を教えるだけでなく、広い視野にたち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められていることを理解できるように展開していく。</p>                                            |   |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 教育課程論      | 2 | 自由 | <p>学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的な内容（基本方針、特徴等）について、多角的に展望するための基礎的な知識や概念について概観する。この授業については、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。あわせて、それを基盤的に支える思想やそれに関連する基礎的な知識・理論、学校・地域の実態や教育改革の諸動向を踏まえつつ、学校現場において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践力の基礎を身につけられるように展開していく。</p>          | ○ |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 道徳教育の理論と方法 | 2 | 自由 | <p>この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。「新学習指導要領」の総則及び第3章への内容理解を踏まえつつ、新たな道徳教科書の教材研究と教材解釈に取り組んでみたい。授業の進め方は、講義と質疑応答を基本としつつ、テーマごとのグループワークの機会をできる限り確保して、道徳教育に関する知識・理解と実践の素地をつくることを目指す。</p>                                                             |   |  |  | ○ | ◎ | 4, 5, 10 |
| 教育原理       | 2 | 自由 | <p>教育とは何か、その語源を押さえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行っていききたい。あわせて現代教育の政策的課題や学習と学校の今後の在り方についても考察を加えていきたい。同時に世界に眼を転じて、西欧近代から現代への教育と教育思想の歴史的発展をおさえつつ、現代世界に受容されている「生涯学習論」の内実と意義を確認しつつ、OECDの国際学力調査の動向や欧米における教育改革の進展についても考察を加えていく計画である。</p>                        |   |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 教育心理学      | 2 | 自由 | <p>授業内容：前半は、教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識とスキルが必要となるのかに焦点をあて、子どもの発達の理解、発達課題、仲間関係の発達、発達と学校教育の関連について学習を進める。また、後半では、子どもの学習を促すには、学習にどう動機づけ、わかる授業をどうこなうかに焦点をあて、学習とは、学習と授業の関連、授業の形態と適切な処遇、学習への動機づけ、わかるとは、覚えるとは、学習を促すことと評価の関係などを考えながら学習をすすめる。</p>                                                                                                                                            |   |  |  | ○ | ◎ | 4, 16    |
| 教育制度       | 2 | 自由 | <p>まずは歴史的アプローチとして、近代社会における近代公教育の成立と発展につて、欧米と日本の歩みについて概観するとともに、現代日本の教育制度を方向つけている戦後教育改革の内容、すなわち日本国憲法の下での「教育基本法」「学校教育法」の制定と進歩的学校制度の形成、さらには教育委員会制度や教員免許制度等の成立を押さえていきたい。そのうえで更に現代日本の教育制度の諸側面（幼児教育・義務教育・中等高等教育・教職制度等）に関しても言及し考察を加えていきたい。そして教育制度を組織化し改善改革をすすめている中央教育行政（文部科学省）と地方教育行政（教育委員会）に関する権限と役割について理解を進めていくこととする。</p> <p>講義を中心としつつ、各領域の今日的課題点については、グループワークや意見交換の機会をそれぞれ持っていきたい。</p> | ○ |  |  | ○ | ◎ | 4, 16    |
| 特別活動論      | 2 | 自由 | <p>特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決をおこない、よりよい集団や学校生活を目指しておこなわれる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応など、特別活動の指導において必要な知識および素養を身に付けられるよう、具体的な事例を用いてその態様を考察していく。</p>                                                                                                                                                       |   |  |  | ○ | ◎ | 4        |

専  
門  
科  
目  
群  
Ⅲ  
(  
教  
職  
関  
連  
)

|                       |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |   |  |  |  |   |   |          |
|-----------------------|---|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--|--|---|---|----------|
| 生徒指導（進路指導の理論および方法を含む） | 2 | 自由 | 生徒指導の基本的なとらえ方、学習指導・進路指導・教育相談との関わりについて幅広く学ぶ。そして、学校における小・中・高校生の心理や状況を把握し、それらに応じた諸々の指導がどのように行われているのか、課題や対応の仕方等について理解を深める。特に、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価の改善や推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織体制に必要な知識や素養を身に付ける。                                                                                                                                                            |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 特別のニーズ教育論             | 2 | 自由 | インクルーシブ教育システムの基本的な理解を深めることをねらいとして、通常学級に在籍する障害の有無にかかわらず“特別の教育的ニーズ”をもつ生徒の学習上、生活上の困難さの理解を深め、教育的支援のあり方について理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ学習する。具体的には、そもそも「発達とは何か」「障害とは何か」「生活とは何か」ということを深め、“特別な教育的ニーズ”をもつ生徒へのよりよい支援の基盤が身につくように展開していく。                                                 | ○ |  |  |  | ○ | ◎ | 4, 5, 16 |
| 総合的な学習の時間の指導法         | 2 | 自由 | 多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる特別活動の教育的な意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。また、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指す総合的な学習の時間の広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通し、考察していく。                            |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 教育方法論（ICT活用を含む）       | 2 | 自由 | この授業は、「教員としての授業実践力」を修得するためにインクルーシブ教育の視点と「授業づくり」の関連性をもとに、各教科、総合的な学習の時間等の「よりよい授業づくり」に向け、授業形態の歴史的な変遷、授業を成立させるための基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、授業研究（学習指導案の作成、模擬授業の実践、授業検討会）を展開することで教育実習時の授業場面に役立つ「授業づくり」とそれを実践する力を学習する。具体的には、授業場面の事例をもとに、「授業づくり」への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討し、より良い教育を創りだしていく基盤が身につくように展開していく。                                                   |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4, 10    |
| 教育相談（カウンセリングを含む）      | 2 | 自由 | 思春期・青年期の発達には、依存と自立が混在する心理的不安定さ、アイデンティティの問題、身体的変化などが複雑にからみ合い、そうした過程を経て自己をつくる年代である。この時期の心の成長を援助するため、また心の問題を抱えた生徒に対応するため、教師として知っておきたい教育相談およびカウンセリングの基本を学習する。具体的には、生徒理解の内容と方法、心の問題に対する教育相談の実践、教師の役割、教師間や他職種との連携などを事例を提示しながら検討する。                                                                                                                                              |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 介護等体験                 | 2 | 自由 | 事前指導においては、安全で効果的な介護等体験の実習をおこなうために、実習の目的や意義、留意点や守るべきマナーなどを学び理解を深める。また、介護等体験の実習先である特別支援学校および社会福祉施設において求められる特別支援教育や介護・支援に関する知識、障がい者や高齢者の特性などに関する知識について学ぶ。事後指導においては、介護等体験の振り返りを通して、自身の目指す教師像について具体的にイメージを持てるように展開していく。                                                                                                                                                        | ○ |  |  |  | ○ | ◎ | 3, 4     |
| 教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）    | 3 | 自由 | 教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。                                                                                                      |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 教育実習Ⅱ                 | 2 | 自由 | 教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。                                                                                                      |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 教職実践演習（中・高）           | 2 | 自由 | 教員としての意識と幅広い実践的指導力の向上を図るため、教員がもつべき使命感・責任感・社会性・対人関係能力について考察する。併せて、各教科や道徳の学習指導上の実践力の向上、さらに生徒指導の実践力（生徒理解や学級経営そして部活指導に関する領域に関して）の向上のために、大学での以下の授業と課題の探究のなかで、特にグループワークでのコミュニケーションや発表とまとめを中心とした演習でそれらの再構成を目指す。                                                                                                                                                                  |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |
| 社会科教育法Ⅰ               | 2 | 自由 | 社会科の意義、目標、内容、方法、評価、学習指導要領など基礎論的な内容と、授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループ分けをして、グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。アクティブラーニングが中心となる。優れた学習指導案や具体的な教材を紹介して、社会科授業の実践的な能力を身に付けられるようにする。情報機器の活用も含む。<br>受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法Ⅰは主として中学校社会科の地理的分野を取り扱う。本講義担当者は実際に文部科学省の学習指導要領解説の専門的作業等協力者を務めたので、その経験を踏まえて具体的に述べる。<br>注）教職科目なので、教職課程をとっていない者（下の学年の教職科目を履修していない者）は受講することはできない。 |   |  |  |  | ○ | ◎ | 4        |

|             |   |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |  |  |  |   |   |   |
|-------------|---|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|---|---|---|
| 社会科教育法II    | 2 | 自由 | 社会科の意義、目標、内容、方法、評価、学習指導要領など基礎論的な内容と、授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループ分けをして、グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。アクティブラーニングが中心となる。優れた学習指導案や具体的な教材を紹介して、社会科授業の実践的な能力を身に付けられるようにする。情報機器の活用も含む。<br>受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法IIは主として中学校社会科の歴史的分野を取り扱う。本講義担当者は実際に文部科学省の学習指導要領解説の専門的作業等協力者（高等学校公民科）を務めたので、その経験を踏まえて具体的に述べる。                                                                 |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 社会科教育法III   | 2 | 自由 | 社会科の意義、目標、内容、方法、評価、学習指導要領など基礎論的な内容と、授業の組み立てや学習指導案の作成、模擬授業など実践的な内容を扱う。グループ分けをして、グループで模擬授業を企画したり実践したりする活動も毎回取り入れる。アクティブラーニングが中心となる。優れた学習指導案や具体的な教材を紹介して、社会科授業の実践的な能力を身に付けられるようにする。情報機器の活用も含む。<br>受講生が模擬授業を行う時間をなるべく確保する。社会科教育法IIIは主として中学校社会科の公民的分野を取り扱う。本講義担当者は実際に文部科学省の学習指導要領解説の専門的作業等協力者（高等学校公民科）を務めたので、その経験を踏まえて具体的に述べる。                                                                |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 社会科教育法IV    | 2 | 自由 | 教育実習を具体的な目標として、そのための準備を行う。<br>・模擬授業を中心に実施して、授業の実践力を高める。<br>・教材研究を行って、授業に必要な社会科の知識・技能を高める。<br>・学習指導案を作成して、授業の計画立案能力を高める。<br>・課題探究学習も行う。<br>*各自、実習先での使用教科書、授業範囲など、あらかじめ問い合わせることが望ましい。<br>教科教育法であるので、アクティブラーニングが中心になる。<br>教材研究のために大学図書館を積極的に活用すること。ゼミナール方式で進めるので、受講者はお互いによく協力すること。担当教員はゼミ教員のつもりで相談をしてよい。注) 教職科目なので、教職課程をとっている学生以外は受講できない。                                                   |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 公民科教育法I     | 2 | 自由 | 高等学校公民科の意義・歴史の変遷と課題、目標、内容、方法、評価を取り上げる。優れた実践や教材も適宜紹介する。公民科教育法1（春学期）は「現代社会」と「政治・経済」、課題追究学習を中心に取り上げる。講義だけでなく、グループ活動も毎回取り入れ、グループごとに「学習指導案」を作成し、模擬授業を行い、実践的な能力も身に付けられるようにする。教員を目指す人は、同時に社会科教育法なども履修することを勧める。教科教育法であるので、アクティブラーニングが中心になる。また、ゼミナール方式で進めるので、受講者はお互いによく協力すること。担当教員はゼミの教員のつもりで相談をして結構である。模擬授業には情報機器を活用できるようにする。本講義担当者は実際に文部科学省の学習指導要領解説の専門的作業等協力者（高等学校公民科）を務めたので、その経験を踏まえて具体的に述べる。 |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 公民科教育法II    | 2 | 自由 | 公民科教育法1で学習したことを土台にして、授業づくりと教材研究を行う。グループに分かれて、学習指導案を作成し模擬授業を行い、教育実習で公民科の授業がしっかりとできるように指導を行う。公民科教育法2（秋学期）は現代社会、倫理、課題を探究する活動を中心に取り上げる。公民科の授業をするには、自分が教える内容について豊富な知識を持っていることが必要であり、講義時間外にも教科書、参考書を熟読し、自他の模擬授業等を通して、公民科の教育内容について十分理解するようにする。1人2テーマ以上の模擬授業を行う時間を確保する予定である。<br>本講義担当者は実際に文部科学省の学習指導要領解説の専門的作業等協力者を務めたので、その経験を踏まえて具体的に述べます。模擬授業には情報機器を活用できるようにする。                                |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 保健体育科教育法I   | 2 | 自由 | 本授業では、①学習指導要領に示されている「保健」「体育」の目標や内容等について説明することができること、②目標に準拠した指導と評価を踏まえた保健・体育授業の基本的な考え方と進め方について理解できること、を到達目標とする。授業では、保健体育科の授業とは、どのような理論に即して実施されているのかについて学習指導要領解説などを踏まえて講義を行い、中学校・高等学校における分野・科目「保健」「体育」の授業づくり、その実践ができる力量の形成を図る。そして、保健体育科教育の目標、内容、方法、評価についての今日的課題を、学習指導要領や保健体育科教育研究の動向を通して分析・検討し、保健体育科教員としての資質を向上させる。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                      |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 保健体育科教育法II  | 2 | 自由 | 本授業では、①学習指導要領に基づいた学習指導案を作成できること、②授業づくりに具現化する演習（教材づくり）を通して実践的指導力を身に付けること、を到達目標とする。授業では、学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、指導計画の作成を通じて、学習内容や多様な学習方法、指導方法、教師行動について考察していく。また、教材・教具や学習指導方法の講義を通して「よい授業」「魅力ある授業」を模索していく。これらの授業を通して、保健・体育授業をつくる上で必要となる基礎的な知識を学び、単元計画・学習指導案の作成等を通して、授業づくりの実践力や安全に配慮された指導力を高める。また、グループでの活動を通してコミュニケーション能力や協働して学び合う態度を養う。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 保健体育科教育法III | 2 | 自由 | 本授業では、①保健、体育授業の実施計画について理解をより深め、単元計画や学習指導案の作成ができること、②保健、体育授業の教材づくりの視点を持って学習指導案の作成ができること、③組織的観察法についての理解を深め、より良い保健、体育授業の創出のための学習指導について考えることができること、を到達目標とする。授業では、保健及び体育授業の科学研究成果をはじめとする幅広い知識や教養を学び、得られた情報をもとに学習指導案を作成し、模擬授業を実際に展開することにより、対人調整力やコミュニケーション力、より高度な応用力及び表現力を身につけることを目指す。また、省察を通して、客観的に授業を観る力を伸ばし、創意工夫を行う姿勢や自らの実践を反省する力と自己研鑽する能力を身に付ける。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者         |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |
| 保健体育科教育法IV  | 2 | 自由 | 本授業では、①各領域の学習指導に必要な知識と技能を習得し、指導できるようになること、②保健体育科において取り上げる運動や保健領域について、実際の指導法の授業を通して、教材化することができること、を到達目標とする。授業では、各自に必要な教材研究を設定し、それについての発表し再確認を行うことを通じて、また優れた実践のVTR視聴し具体的なイメージを話し合い指摘し合うことを通じて、中学校・高等学校での保健体育の授業を展開するにあたって保健体育科教員が身につけていなければならない基本的な指導法の習得を目指す。<br>※履修の対象は、原則、中学校・高等学校保健体育教職課程登録者                                                                                           |  |  |  |  | ○ | ◎ | 4 |

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

#### SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」